

平成25年度文部科学省

東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

福島県における医師事務作業補助者
育成プログラムの開発と実行
総括報告書

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

平成25年度文部科学省 東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

総 括 報 告 書

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

目 次

事業報告

1.事業概要及び内容

1. 事業の概要	1
2. 教材の開発内容	1
3. 講座実施	3
3-1. 中級講座	3
(1)日時	3
(2)会場	3
(3)参加者	3
(4)カリキュラム等	3
(5)実施時間	3
(6)科目別カリキュラム	4
(7)講師	7
(8)受講募集および受講者数	7
(9)募集内容	7
(10)応募者プロフィール	9
3-2. 上級講座	12
(1)日時	12
(2)会場	12
(3)参加者	12
(4)カリキュラム等	12
(5)実施時間	12
(6)科目別カリキュラム	13
(7)講師	15
(8)受講募集および受講者数	15
(9)募集内容	15
(10)応募者プロフィール	17
4. 講座実施結果	21

4-1. 中級講座 アンケート集計結果	21
4-2. 上級講座 アンケート集計結果	30
4-3. 講座風景	40
5. 視察調査報告	41
①岩手県、宮城県、福島県の医療機関の復旧・復興状況	41
②視察概要	42
③視察詳細	42
(1) 社会医療法人 愛仁会 高槻病院	43
(2) 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院	49
(3) 医療法人溪仁会 手稻溪仁会病院	54
(4) 広島赤十字・原爆病院	63
(5) 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院	73
(6) いわき市立総合磐城共立病院	78
(7) 医療法人 松田会 松田病院	84
(8) 医療法人社団赤石会 赤石病院	89

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行 事業報告

1. 事業概要及び内容

1. 事業の概要

本事業は、第2次福島県浜通り地方医療復興計画で報告された、浜通り地方および県中医療圏の深刻な医師不足・看護師不足を解消することを目的として医師事務作業補助者の育成を図り福島県の医療復興に貢献する。

具体的には、福島県地域医療課、浜通りや郡山エリアの医師会や病院および医師事務作業補助者育成経験を持つチームで福島県の特性を踏まえた医師事務作業補助者育成教材を再開発し講座を開講する。また、受講修了者には医師会から修了認定証を発行するとともに浜通りや郡山エリアへ医師事務作業補助者を供給する仕組みを作り医師不足の解消に貢献する。

2. 教材の開発内容

◆電子カルテ代行入力教材

IT化の流れ、電子カルテの定義、電子カルテ関連知識、電子カルテと地域医療情報システム、電子カルテシステム関連用語、電子カルテ入力演習など、被災地に役立つ内容となるよう開発した。

◆電子カルテ代行入力問題集

電子カルテシステムの実際の操作や活用を演習するため問題集を開発。ロールプレイング形式の問題が好評であることから、実践的感覚を身に付けられるように医師と患者のやり取りを問答形式に取りまとめた。

◆医師事務作業補助者育成教材

医師が行っている仕事の内容や医師が作成しなければならない文書の種類を学び、医師にかわって医療文書の原案を作成できる人材を育成するための教材を開発した。また、前年度講座受講者のレベルにばらつきがあったことを鑑みレベル別(中級編・上級編)に開発を行った。

教材は中級編・上級編とも<1部>法規・概要、<2部>医学・薬学・医師事務作業補助業務の2部構成となっている。

◆医師事務作業補助者育成問題集

教材開発同様、問題集もレベル別（中級編・上級編）に開発を行った。中級編は診療所、100床未満の医療機関でよく出てくる文書、上級編は200床以上の医療機関でよく出る文書や院外文書等を中心とした構成となっている。

◆医療用語集

医療現場や講座受講者等からの意見を反映し、リニューアルを行った。今年度は、医療現場でよく使われるカタカナ用語を中心にカルテによく出る医療用語や病院用語等で作成を行った。

◆医療用語集アプリケーション

これまでに出版している医療用語集を手軽にどこでも利用できる教材としてスマートフォン向けアプリ開発をした。「現場で使える！医療用語集」として、用語の読み方や略語を学ぶ問題や穴埋め問題などでトレーニングできるよう仕様とした。現在アップストアからダウンロードできるようになっている。

◆医師事務作業補助者育成シナリオ集・DVD

ロールプレイング形式で行われるビデオ教材が有効であることから、診察の様子を再現した5分程度のビデオを5本作成し、医師事務作業補助者に必要な書類作成業務を行う事ができる教材を作成しDVDに収録。ビデオ5本分のシナリオと文書のひな形などをシナリオ集として1冊にまとめた。

3. 講座実施

3-1. 中級講座

(1) 日 時

平成25年11月16日(土)、17日(日)
23日(土)、24日(日) 計4日

(2) 会 場

学校法人郡山学院 ケイセンビジネス公務員カレッジ

(3) 参加者

合計20名 (福島県内の受講者)

(4) カリキュラム等

医療に従事している方および医療関係に従事したことのある方を対象とした方を対象としてカリキュラムを設計。

また、医師事務作業補助者の登録要件に32時間以上の知識教育が定められており、授業時間数は2科目で28時間程度とし、自宅でのレポート作成、提出を4時間分相当として講座を展開した。

(5) 実施時間

日 付	講座時間	内容内訳
11月16日(土)	7時間	文書作成3時間、電子カルテ4時間
11月17日(日)	7時間	文書作成7時間、電子カルテ4時間
11月23日(土)	7時間	文書作成3時間、電子カルテ4時間
11月24日(日)	7時間	文書作成3時間、電子カルテ4時間

*なお、32時間に満たない時間数はレポート提出で補うことにした。

(6) 科目別カリキュラム

■11月16日 [午前]

09:00～10:00	講義	伊藤	医学の基礎知識、カルテによく出る漢字
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	伊藤	医学、病名、読み、書き、意味
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	伊藤	文書作成、作成の基本、要約、語彙

[午後]

13:00～14:00	講義	柄沢	①導入・医師事務作業補助者の強化ポイント（電子カルテ 代行入力／文書代行作成） ・「医師及び医療関係職と事務職員等との間等での役割 分担の推進について」 （平成 19. 12. 28）の状況→平成 20 年：医師事務作業 補助体制加算の誕生 ※【配布資料】「導入資料：医師の間接的業務時間」等 ②ソフト操作説明（基本） ※【配布資料】「第3号 北沢修」（カルテ形式） ③ソフト操作説明（オーダー入力（予約入力、処方箋入力 については後日演習にて対応）） ④まとめ（電子カルテの機能・電子保存の3原則） ※【配布資料】電子カルテの機能
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義		
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義		
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義		

■11月17日 [午前]

9:00～12:00	講義	伊藤	診療所、クリニック用文書作成、各種用紙の提出先
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	伊藤	カルテを読み込み、ポイントを絞り文書を作成
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	伊藤	診断書、診療情報提供書作成

[午後]

13:00～14:00	講義	柄沢	①医療文書システムの操作方法 ※(①)・・・通常は講座最終日の実施内容も諸般の事情により先に実施) ～以下、「文書作成講座」とのコラボ講座～
14:00～14:10	休憩	伊藤	
14:10～15:00	講義		診断書、診療情報提供書、入力の説明
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義		診断書、診療情報提供書入力
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義		総復習

※第1回のレポート提出

■11月23日 [午前]

9:00～10:00	講義	野田	医療関連法規（医療法、医師法、保健師・助産師・看護師法、地域保険法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、生活保護法、高齢者の医療の確保に関する法律）
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	医療関連法規（老人福祉法、身体障害者福祉法、障害者基本法、障害者自立支援法、介護保険法、主治医意見書）
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	野田	医療保険制度（健康保険法、国民健康保険法、保険医療機関及び保険医療養担当規則、労働者災害補償保険法、自動車損害賠償保障法、保険医療機関及び保険医の社会的責任、公費負担医療制度）

[午後]

13:00~14:00	講義	柄沢	⑤診療録等の書き方、入院診療録記載の方法 ※【配布資料】都立病院における診療録等記載マニュアル ⑥SOAPの記載方法の説明（まとめ）と設問練習 ※【配布資料】SOAPの記載方法 ⑦ソフト入力演習 ※【配布資料】「第8号 清水ひとみ」（カルテ形式）
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講義		
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講義		
16:00~16:10	休憩		
16:10~17:00	講義		

■11月24日 [午前]

9:00~10:00	講義	野田	医療と診療録（診療録の定義と関連法規、診療録記載の法的根拠）
10:00~10:10	休憩		
10:10~11:00	講義	野田	医療と診療録（電子カルテシステム（オーダーリングシステム）、診療録等の定義と記載の原則、POMR（問題志向型診療録）、電子カルテについての概略、電子署名及び認証業務）
11:00~11:10	休憩		
11:010~12:00	講義	野田	医師事務作業補助業務（個人情報保護法、文書作成補助業務）

[午後]

13:00~14:00	講義	柄沢	⑧より上手な診療録等の書き方—POS— ※【配布済み資料】都立病院における診療録等記載マニュアル ※【配布資料】パターン、記載見本 ⑨ソフト入力演習 ※【配布資料】「第2号 杉山康太」（問答形式） ※【配布資料】「第9号 三和秀樹」（問答形式） ※【配布資料】「第4号 小野郁子」（問答形式） ※【配布資料】「第6号 小山順子」（問答形式） ⑩総括：＜代行入力に求められる能力＞、 ＜医師事務作業補助者の遣り甲斐＞など
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講義		
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講義		
16:00~16:10	休憩		

16:10～17:00	講義		
-------------	----	--	--

*第2回レポート提出

(7) 講師

■医療文書作成

株式会社 NI メディカルオフィス 伊藤 典子先生

日本工学院八王子専門学校 野田 雅司先生

■電子カルテ代行入力

ケアアンドコミュニケーション株式会社 柄沢 清先生

(8) 受講募集および受講者数

参加募集は、新聞普及率「福島民報」33.47%、「福島民友」24.38%トータル約60%の住民が購読している新聞広告掲載による方法で行った(平成25年10月19日(土)掲載)。結果、募集定員20名の募集に対し申込者数は20名の受講希望者を得ることができた。

(9) 募集内容

◆講座◆【中級】医師事務作業補助者養成講座

～福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発事業～

◆対象者◆ 現在、医療に従事している方。医療事務を学んだことのある方。

◆受講料◆ 無料

◆期間◆ 平成25年11月16日(土)、17日(日)、23日(土)、24日(日)
9:00～17:00 (休憩・昼食時間など含む) 計4日32時間

◆会場◆ ケイセンビジネス公務員カレッジ

◆定員◆ 20名

◆申込み方法◆ 往復はがき

- ・氏名・性別・年齢・住所 ・医療関連事務経験の有無
- ・電子カルテ入力経験の有無 ・医療文書作成経験の有無
- ・応募動機

◆締切り◆ 平成25年11月5日(火) 必着

◆募集方法◆ 新聞広告および郡山医師会の協力

◆新聞広告等◆

福 島 民 友

2013年(平成25年)10月19日(土曜日) 郡山 (10)

文部科学省委託事業「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」

福島県における医師事務作業補助者育成プログラム開発事業

中級 医師事務作業補助者養成講座

受講生募集!!
受講料無料

医療文書作成

診療所や100床未満の医療機関で文書を作成できる人材を養成。

- 医師事務作業補助者の仕事や制度を理解
- 診療情報提供者、診断書、紹介状等の内容を理解し文書作成。

電子カルテ代行入力

電子カルテ代行入力に必要な知識をソフト実習で学ぶ。

- POS・POMRを理解。
- SOAP形式によるカルテの記載等。

対象者 現在、医療に従事している方。医療事務を学んだことのある方。

期間 平成25年11月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)
4日間(計32時間)/時間9:00~17:00(休憩・昼時間等を含む)

定員 20名 ※応募多数の場合、選考の上、決定します。

会場 ケイセンビジネス公務員カレッジ
期間中は公共交通機関をご利用ください。

主催: KeiSen ケイセンビジネス公務員カレッジ 福島県郡山市芳賀2-3-5 TEL.024-941-1276 担当/大森

申込方法 **11月5日(火)必着**

必ず注意はがきでお申し込みください。
詳細は返信はがきでご連絡いたします。

963-8813
郡山市芳賀2-3-5
ケイセンビジネス公務員カレッジ
養成講座 受付

〒 郡山市 白紙
この欄には何も記入しないでください

〒 郡山市 白紙
この欄には何も記入しないでください

お申込者様の住所
お申込者様の氏名

①氏名(ふりがな)
性別・男・女
年齢
〒・住所
電話番号
②医療関連事務経験有・無
③電子カルテ入力経験有・無
④医療文書作成経験有・無
⑤応募動機

文部科学省委託事業「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」

福島県における医師事務作業補助者育成プログラム開発事業

中級 医師事務作業補助者養成講座

受講生募集!!
受講料無料

医療文書作成

診療所や100床未満の医療機関で文書を作成できる人材を養成。

- 医師事務作業補助者の仕事や制度を理解
- 診療情報提供者、診断書、紹介状等の内容を理解し文書作成。

電子カルテ代行入力

電子カルテ代行入力に必要な知識をソフト実習で学ぶ。

- POS・POMRを理解。
- SOAP形式によるカルテの記載等。

対象者 現在、医療に従事している方。医療事務を学んだことのある方。

期間 平成25年11月16日(土)・17日(日)・23日(土)・24日(日)
4日間(計32時間)/時間9:00~17:00(休憩・昼時間等を含む)

定員 20名 ※応募多数の場合、選考の上、決定します。

会場 ケイセンビジネス公務員カレッジ
期間中は公共交通機関をご利用ください。

主催: KeiSen ケイセンビジネス公務員カレッジ 福島県郡山市芳賀2-3-5 TEL.024-941-1276 担当/大森

申込方法 **11月5日(火)必着**

必ず注意はがきでお申し込みください。
詳細は返信はがきでご連絡いたします。

963-8813
郡山市芳賀2-3-5
ケイセンビジネス公務員カレッジ
養成講座 受付

〒 郡山市 白紙
この欄には何も記入しないでください

〒 郡山市 白紙
この欄には何も記入しないでください

お申込者様の住所
お申込者様の氏名

①氏名(ふりがな)
性別・男・女
年齢
〒・住所
電話番号
②医療関連事務経験有・無
③電子カルテ入力経験有・無
④医療文書作成経験有・無
⑤応募動機

(10) 応募者のプロフィール

男女別地域別応募者一覧

性別 地区	男性		女性		合計	
	地域	人数	地域	人数	地域	人数
会 津	会津若山市	0	会津若山市	2	会津若山市	2
	会津坂下町	0	会津坂下町	1		1
浜通り	いわき市	0	いわき市	4	いわき市	4
中通り	矢吹町	1	矢吹町	0	矢吹町	1
	川俣町	0	川俣町	1	川俣町	1
	国見町	0	国見町	1	国見町	1
	郡山市	0	郡山市	6	郡山市	6
	白河市	0	白河市	1	白河市	1
	伊達市	0	伊達市	1	伊達市	1
	福島市	0	福島市	2	福島市	2
	地域合計	1	地域合計	19	地域合計	20

受講者応募動機等一覧

No.	性別	住所	年齢	経験	応募動機
1	女	郡山市	44	有	医療事務の資格取得後に医師事務作業補助者も勉強するつもりでいたが主人の転勤で自分の目標を見失っていた。新聞を見た時にやっぱり勉強したい、チャレンジしたいと瞬時に思い、応募に至った。
2	女	会津若松市	64	有	次の仕事に生かしたい。
3	男	矢吹町	51	無	補助事務員として少々勤務経験有。この機会に勉強し、医療事務の資格を取得しレベルアップを考え応募しました。
4	女	国見町	35	有	過去に医療事務を学びました。現在は医療機関では働いておりませんが、医療に係る仕事をしております。その中でもっと知識を深めたいと思い、また現在の仕事が3月で契約終了となることから、これからも医療に係る仕事をしていきたいと考え応募いたしました。ご検討の程、宜しくお願いいたします。

医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

No.	性別	住所	年齢	経験	応募動機
5	女	会津坂下町	42	有	H25・5/12～開設した会津医療センターでクラークとして勤務中ですが、4/1 採用～1ヶ月間の机上の研修のみで現場(外来)に入っているため、まだまだわからないことも多く、是非この機会に勉強したいと思い、応募いたしました。特に、電子カルテ機能に関する知識を深めたり、今後増えてくる文書作成業務について、講習を受けて実践役立てたいです。よろしくお願ひいたします。
6	女	郡山市	42	無	5年前に医療の道に進みたく医療事務の資格を取得しましたが、なかなかその仕事に就くことができずにおりました。しかし諦めきれずに医療に従事したいと願ひ、少しでもスキルアップしたいと思い応募しました。宜しくお願いします。
7	女	白河市	36	無	医療事務の資格を取得しているので、医師事務作業補助者の制度や仕事の内容電子カルテ入力などについて理解できるように学んでいきたいと思い応募しました。
8	女	福島市	31	有	医療文書の内容をよく理解し、正確かつスピーディーに文書を作成できるようになりたいため。また、電子カルテを導入する医療機関が増えており、今後電子カルテ入力スキルは必要不可欠であると考え、基礎知識からしっかりと学びたいと思い志望いたしました。
9	女	会津若松市	36	有	私は会津若松市にあります「山鹿クリニック」で医療事務の仕事をしております。仕事柄、「医療秘書係」に毎日のように診断書作成を依頼しており、医師事務作業補助に大変関心を持っております。診療報酬、保険請求業務の他にも学んでみたいと思い、応募させていただきました。何卒、宜しくお願いいたします。
10	女	伊達市	31	有	私は、6年間調剤薬局で働いていました。今回こちらの講座を拝見し、医療従事者の一員として幅広い知識を学びたいと思いました。そして、福島の復興のために頑張りたいです。
11	女	郡山市	24	無	資格を持っていますが、もっと実践的なことをしてみたいと思い、志望しました。
12	女	伊達郡川俣町	37	有	以前医療事務の仕事をした経験があり、現在再就職を考えています。これから仕事をする上で知識を身に付けたいと思い受講を希望しました。
13	女	福島市	52	有	現在、診療所を持つ検査センターで働いています。医師の不足により、一人の医師の負担が大きく、少しでも軽減できればと事務補助に申し込みました。また、近々、電子カルテ対応システムが変わっていきます。それに準備していきたいと思いました。宜しくお願いいたします。

No.	性別	住所	年齢	経験	応募動機
14	女	郡山市	42	有	私は、県の医師事務作業補助者導入推進事業に応募し派遣→直接雇用となりましたが、諸事情により退職してしまいました。1年6ヶ月の勤務でしたが、文書作成することなく、主に病棟クレークとしての勤務でしたし、電子カルテ導入前でしたので、今回の講座内容を拝見し、改めて学び、もう一度医師事務作業補助者として勤務できるような基礎を築きたいと思いました。
15	女	いわき市	42	有	とても興味があり、勉強してみたいと思いました。
16	女	いわき市	32	有	転職を考えている事や、電子カルテ代行入力に必要な知識を学びたい為、応募しました。2年間に医師事務作業補助者の資格を取得しているのですが、受講は可能でしょうか。
17	女	郡山市	26	有	スキルアップのため
18	女	郡山市	52	無	就職(年金事務所)で医療機関・医師による診断書、証明書などの書類を確認する仕事をしていました。作成することにとっても興味があります。
19	女	いわき市	40	有	今後、電子カルテ移行に伴い御講座にて学習させていただきたく、応募いたしました。宜しくお願いいたします。
20	女	いわき市	48	有	以前から医師事務作業補助者の求人等を見て、興味を持っておりました。詳しいことが分からず、この機会に具体的に学べたらと思い、応募させていただきました。平成元年9月～22年7月まで医療事務に従事。

3-2. 上級講座

(1) 日 時

平成26年1月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日) 計4日

(2) 会 場

学校法人郡山学院 ケイセンビジネス公務員カレッジ

(3) 参加者

合計22名 (福島県内の受講者)

(4) カリキュラム等

医療に従事している方および医療関係に従事したことのある方を対象とした方を対象としてカリキュラムを設計。

また、医師事務作業補助者の登録要件に32時間以上の知識教育が定められており、授業時間数は2科目で28時間程度とし、自宅でのレポート作成、提出を4時間分相当として講座を展開した。

(5) 実施時間

日 付	講座時間	内容内訳
11月11日(土)	7時間	文書作成3時間、電子カルテ4時間
11月12日(日)	7時間	文書作成3時間、電子カルテ4時間
11月18日(土)	7時間	文書作成3時間、電子カルテ4時間
11月19日(日)	7時間	文書作成7時間、電子カルテ4時間

*なお、32時間に満たない時間数はレポート提出で補うことにした。

(6) 科目別カリキュラム・シラバス

■ 1月11日 [午前]

09:00～10:00	講義	野田	医師事務作業補助者の概要
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	医療情報システムの構成
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	野田	地域医療システムと遠隔医療システム クラウドを利用した電子カルテシステム

[午後]

13:00～14:00	講義	古川	I T化の流れと診療録の電子化への道
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	古川	電子カルテの定義、機能
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義	古川	電子カルテシステム関連用語
16:00～16:10	休憩		
16:10～17:00	講義	古川	業務処理フローと入力演習（診療所）

■ 1月12日 [午前]

9:00～12:00	講義	野田	医師事務作業補助者が必要とするコンピュータ用語①
10:00～10:10	休憩		
10:10～11:00	講義	野田	医師事務作業補助者が必要とするコンピュータ用語②
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:00	講義	野田	医師事務作業補助者が必要とするコンピュータ用語③

[午後]

13:00～14:00	講義	古川	D P C と入院費用の包括払い制度
14:00～14:10	休憩		
14:10～15:00	講義	古川	地域医療情報システム
15:00～15:10	休憩		
15:10～16:00	講義	古川	電子カルテシステムの今後の課題
16:00～16:10	講義		
16:10～17:00	休憩	古川	業務処理フローと入力演習（病院）

※第1回のレポート 関連法規～保険制度まで（1月18日に提出）

■1月18日 [午前]

9:00~10:00	講義	伊藤	医学、薬学の基礎 略語
10:00~10:10	休憩		
10:10~11:00	講義	伊藤	文書作成の業務内容、医療用語
11:00~11:10	休憩		
11:010~12:00	講義	伊藤	文書作成の手順

[午後]

13:00~14:00	講義	古川	入退院窓口における操作
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講義	古川	病棟における操作
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講義	古川	演習問題 (診療所)
16:00~16:10	休憩		
16:10~17:00	講義	古川	演習問題 (病院)

■1月19日 [午前]

9:00~10:00	講義	伊藤	カルテの読み方 文書の提出先
10:00~10:10	休憩		
10:10~11:00	講義	伊藤	文書作成 (診断書、紹介状、処方せん等)
11:00~11:10	休憩		
11:010~12:00	講義	伊藤	診療情報提供書、主治医意見書作成

[午後]

13:00~14:00	講義	古川・伊藤	文書作成 (練習問題)
14:00~14:10	休憩		
14:10~15:00	講義	古川・伊藤	電子カルテ・文書作成
15:00~15:10	休憩		
15:10~16:00	講義	古川・伊藤	〃 (独自で作成した文書を電子カルテに入力)
16:00~16:10	講義		
16:10~17:00	休憩	古川・伊藤	〃

*第2回レポート 文書作成 (2症例) 提出

(7) 講 師

■医療文書作成

株式会社 NI メディカルオフィス 伊藤 典子先生

日本工学院八王子専門学校 野田 雅司先生

■電子カルテ代行入力

佐野日本大学学園佐野短期大学 古川 貴子先生

(8) 受講募集および受講者数

参加募集は、新聞普及率「福島民報」33.47%、「福島民友」24.38%トータル約60%の住民が購読している新聞広告掲載による方法で行った(平成25年12月8日(日)掲載)。結果、募集定員20名の募集に対し申込者数は30名の受講希望者を得ることができた。

(9) 募集内容

◆講 座◆ 【上級】医師事務作業補助者養成講座

～福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発事業～

◆対象者◆ 現在、医療に従事している方。医療事務を学んだことのある方。

◆受講料◆ 無料

◆期 間◆ 平成26年1月11日(土)、12日(日)、18日(土)、19日(日)
9:00～17:00(休憩・昼食時間など含む) 計4日32時間

◆会 場◆ ケイセンビジネス公務員カレッジ

◆定 員◆ 20名

◆申込み方法◆ 往復はがき

・氏名・性別・年齢・住所 ・医療関連事務経験の有無

・電子カルテ入力経験の有無 ・医療文書作成経験の有無

・応募動機

◆締切り◆ 平成25年12月24日(火) 必着

◆募集方法◆ 新聞広告および郡山医師会の協力

(10) 応募者のプロフィール

男女別地域別応募者一覧

性別 地区	男性		女性		合計	
	地域	人数	地域	人数	地域	人数
会 津	会津若山市	0	会津若山市	1	会津若山市	1
	会津坂下町	0	会津坂下町	1	会津坂下町	1
浜通り	いわき市	0	いわき市	4	いわき市	4
中通り	大玉村	0	大玉村	1	大玉村	1
	鏡石町	0	鏡石町	1	鏡石町	1
	川俣町	0	川俣町	1	川俣町	1
	三春町	1	三春町	0	三春町	1
	船引町	0	船引町	1	船引町	2
	矢吹町	0	矢吹町	1	矢吹町	1
	郡山市	0	郡山市	10	郡山市	10
	白河市	0	白河市	3	白河市	3
	須賀川市	0	須賀川市	1	須賀川市	1
	福島市	0	福島市	2	福島市	2
	本宮市	0	本宮市	1	本宮市	1
	地域合計	1	地域合計	29	地域合計	30

受講者応募動機等一覧

No.	性別	住所	年齢	経 験	応募動機
1	女	郡山市	41	無	中級の医師事務の講座を受講しました。ぜひ上級も受講させていただき、いずれは医師事務作業補助者として専門のスキルを身に付け、医療機関でお役に立てる人材になりたいと考えております。
2	女	郡山市	44	有	11月に中級講座終了。引き続き勉強させていただきたい。医師事務作業補助者としてもっと深く文章作成電子カルテ代行入力と勉強したい。
3	女	会津若松市	36	有	11月にこちらの中級講座を受講させて頂き大変勉強になりました。頂いた資料や講座の内容などがすぐに仕事の役に立っていて、有難い限りです。上級コースの勉強もさせて頂いたら更に仕事に活かしていけると思

医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

No.	性別	住所	年齢	経験	応募動機
					い、応募させて頂きました。よろしくお願ひします。
4	女	会津坂下町	42	有	中級講座を受講して更に上級に向けて学びたいと思った為。又、現在メディカルクラークとしての知識が不十分だと思っているので、クラークのノウハウを身につけてスキルアップに役立てたい為。
5	女	郡山市	42	有	中級講座を受講させて頂き、4日間という短い時間にもかかわらず、とても多くのことを学べたことに感謝しています。さらに学び、ぜひ活かしていきたいと思ひ応募しました。よろしくお願ひします。
6	女	川俣町	37	有	前回の中級コースを受講しました。とてもわかりやすく教えていただひて勉強になりました。ぜひ上級も受講して、再就職のためにスキルアップしたいと思ひ応募しました。よろしくお願ひします。
7	女	いわき市	35	有	医療文書作成のスキルアップと、今後勤務先で電子カルテ導入の予定もあるため、電子カルテの知識を得たいと思ひ応募しました。
8	女	鏡石町	36	有	平成 25 年 9 月に医師事務作業補助者の職につきまして、今までは小児科のクリニック経験で医療文書作成はしていませんでした。これからの業務に役立てたく受講希望致します。
9	女	本宮市	51	有	現在、個人開業医窓口にて事務受付就業中、院長にこの講座を受けてみたらと勧められたことと、もう少し仕事の流れを把握したいと思ったので。自分が学ぶことで院長の仕事の補助ができ、医院の診療がスムーズに進むようになれば良いと思ったので。
10	女	白河市	39	有	現在、医師事務作業補助者として働いており、来年度より職場において電子カルテ導入の予定となっているため。電子カルテ入力を学んでみたいため。又、現在、文書作成も行っているが、より詳しく学べる機会を持ちたいと望んでいたからです。
11	女	福島市	34	有	現在、医療クラークの仕事をしており、自分のスキルアップのため受講したいと思ひます。よろしくお願ひします。
12	女	郡山市	37	有	現在医療機関に勤務しており、業務向上とスキルアップのために応募致しました。
13	女	白河市	26	有	職場にて電子カルテ導入の際、医師事務作業補助者を知り、機会があれば学んでみたいと思っていました。今回の養成講座は今働いていても受講できることに大きな魅力を感じ応募させて頂きました。
14	女	郡山市	35	有	キーパーンチャーやカルテ管理の経験、学んだ医療事務の知識、すべてを活かせるのではないかと考え、応募しました。
15	女	郡山市	25	有	今年より医師事務作業補助に携わることになり、今後のカルテ入力を行っ

No.	性別	住所	年齢	経歴	応募動機
					て行きたいと考えております。そのためにカルテ代行入力に必要な知識を学びたく、応募いたしました。
16	女	いわき市	40	有	11月の中級講座を受講し大変勉強になりましたので、ぜひ今回の上級講座も受講し、スキルアップしたいと多い応募致しました。
17	女	福島市	25	有	現在、外科オペレーターとして病院に勤務しています。今後、電子カルテ導入に向けて少しでも知識を得たいと思い応募しました。また、医師事務作業補助者という職種にも関心があり、業務の幅を広げたいと考えています。
18	女	郡山市	26	有	スキルアップのため。中級編の受講もしています。
19	女	田村市	21	有	医療機関で働いていて1年で2年になるので、新しいことに挑戦してみたいと思いました。同じ部所で働いているクラークの仕事にも興味があり、クラークの勉強ができるという話を聞き、応募させていただきました。
20	女	いわき市	48	有	前回の中級講座で熱心なご指導を受け、より興味を持ち、少しでも多く学べたらと再度応募致しました。
21	女	郡山市	38	有	病院(眼科)勤務を始め、2ヶ月です。まだまだわからないことが多く、できる業務も限られています。医師事務の知識を正確なものとし、現場からも患者さんからも必要な人材となることを目指したく希望させていただきます。
22	女	郡山市	36	有	現在医師事務に従事しておりますが、実際の業務はごく一部の分野に限られている為、全体的な仕組みや流れもトータル的に学びたいと思い、応募致しました。
23	女	いわき市	54	有	現在医療事務として勤務していますが、電子カルテが主流となっている現在医師事務作業補助者の需要も拡大していることや人材不足も感じています。そんなニーズに応えるためや自分自身スキルアップにもなればと考え、ぜひ受講してみたいと思い応募しました。
24	女	田村市	59	有	65歳位までは社会貢献をしたいと思い、機会があれば仕事に就きたいと考えておりましたので応募致しました。
25	女	郡山市	57	有	医師事務の試験に無事合格しました。就活しましたが、医療関係には就職できず、今は契約社員で事務職についております。後何十年も仕事はできませんが、一生働きたく思っているので勉強してみたいと思います。よろしくお願いたします。
26	女	須賀川市	32	有	今後のキャリアアップの為、応募しました。

医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行

No.	性別	住所	年齢	経験	応募動機
27	女	矢吹町	34	有	医師事務作業補助者の仕事に大変興味があり応募致しました。
28	女	白河市	52	有	電子カルテの知識を学びたい。
29	男	三春町	不明	有	現在医療事務の職に就いている為、スキルアップしようと思い今回応募しました。
30	女	大玉村	28	有	事務の勉強はしましたが、資格取得には至らず、中途半端になってしまいましたが、医師事務作業補助も勉強して再度就職したいと思いました。

4. 講座実施結果

4-1. 中級講座 アンケート集計結果

「福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行」
 医師事務作業補助者講座<中級>アンケート結果

■プロファイリング

実施日：平成25年11月16日（土）、17日（日）、23日（土）、24日（日）

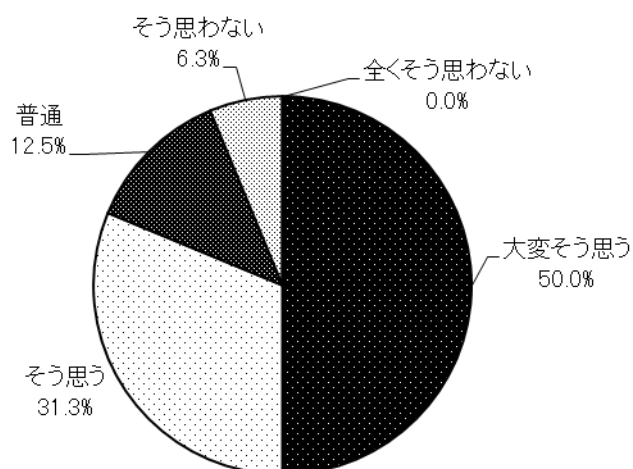
場 所：学校法人郡山学院 ケイセンビジネス公務員カレッジ

対象者：20名

■アンケート結果（回答者16名）

1. 今回の講座全体を通して、将来に役立ちそうな内容でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	8	50.0%
2	そう思う	5	31.3%
3	普通	2	12.5%
4	そう思わない	1	6.3%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	16	100.0%



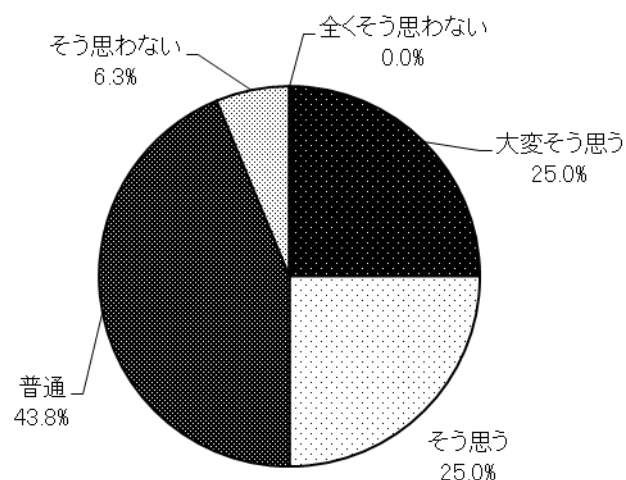
《理由》

- ・再就職の時に、大変役に立つと思います。いつでも多くの経験を持っていれば役に立つと思います。
- ・電子カルテの操作の仕方が良く理解できたから。
- ・SOAP入力形式が理解できた。
- ・スキルアップになった。
- ・文書作成や電子カルテは初めてでしたが、実技を通して学ぶ事ができたので仕事に活かせると思います。
- ・他の所で勉強した時の方が大変勉強になった。
- ・実際のお手本となるものがあって、練習できたことが良かったです。

- ・ 仕事内容が理解できた。
- ・ 現在、医療事務の仕事をしていて今回の講座で教えて頂いたものの中に、またいただいた資料は日々の業務にとっても役に立ちます。
- ・ 講座の時間が少ないので、まだ自分のものになっていない。
- ・ 文書を書くときの留意点。
- ・ 電子カルテシステムを実際に使用できたので、イメージが持ちやすくなった。
- ・ 医師事務作業補助者として、必要な部分について学べたので、独学で学ぶときの方向性がわかった。
- ・ もっと勉強出来たら、役立ちそうな気がします。
- ・ 今までの復習と、今後の業務（電子カルテへの意向がある為）への、予習となり大変勉強になりました。
- ・ 実務に近い。
- ・ 電子カルテの入力は、勉強したことがなかった。

2. 講座の内容は、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	25.0%
2	そう思う	4	25.0%
3	普通	7	43.8%
4	そう思わない	1	6.3%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	16	100.0%



《理由》

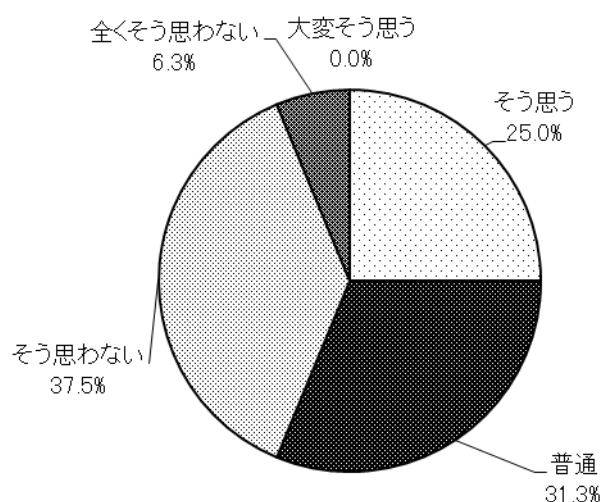
- ・ 短い時間だったので、ペースが早く感じました。
- ・ 重要なポイントがきちんと押さえられたと思うため。
- ・ 説明が大変わかりやすかった。
- ・ むずかしい内容のところもあった。
- ・ とても分かりやすく、丁寧な説明だったので、理解出来ました。
- ・ ゆっくり、丁寧に説明してくださっていました。
- ・ テキストだけでは理解できない問題があった。
- ・ 電子カルテの操作が難しかったです。
- ・ 医療用語でわからない事など、質問する時間がないので理解はあまりできていないよう

に思う。

- ・理解出来たと思うところとできたのか？と思うところがあり、やはり座学については十分理解できたとは思えない。先生が大丈夫といっても本当なのかな？と思う。
- ・もっと勉強出来たら、役立ちそうな気がします。
- ・4日間という短期間でしたので、理解できたかどうか不安です。
- ・余計な？余分な知識をただ詰め込むのではなく「クラークには、ここまでの知識はいらない」と明確に言ってもらえたので、ポイントを押さえた講義内容で良かった。
- ・1日お休みをしてしまった為、理解を深めることが出来ませんでした。

3. 講座の内容に対して、時間配分は適切でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	0	0.0%
2	そう思う	4	25.0%
3	普通	5	31.3%
4	そう思わない	6	37.5%
5	全くそう思わない	1	6.3%
	合計	16	100.0%



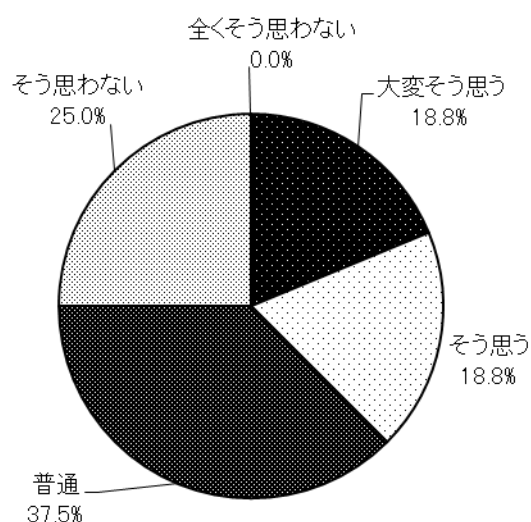
《理由》

- ・もっと時間がほしいと思った。
- ・もう少し、ゆとりが欲しい。パソコンの時間も、もう少し時間が欲しい。
- ・医学について、もう少し詳しく学びたかった。
- ・もう少し時間に余裕があると良かったです。
- ・教材に合わせて説明されていたので大丈夫でした。
- ・4日間だけなので、適切であった。
- ・3人それぞれの先生方、たくさんの知識をお持ちのようだったので、もっとお話をききたかったです。時間がもっとほしかったです。
- ・全ての内容に対して、もっと時間を増やしてほしい。
- ・座学は区切って、実習は区切らず自分のペースでやってよかったので、私としては受けやすかった。
- ・わからない事ばかりだったので、もっと時間があつたらなあと思いました。
- ・もう少し時間が欲しいです。

- ・配分は適切だったけど、あと2日間位かけてやっても良いと思った。
- ・4日間ではなく、もっと深く教えていただきたいかったです。

4. 講座で使用した用語などは、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	3	18.8%
2	そう思う	3	18.8%
3	普通	6	37.5%
4	そう思わない	4	25.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	3	18.8%

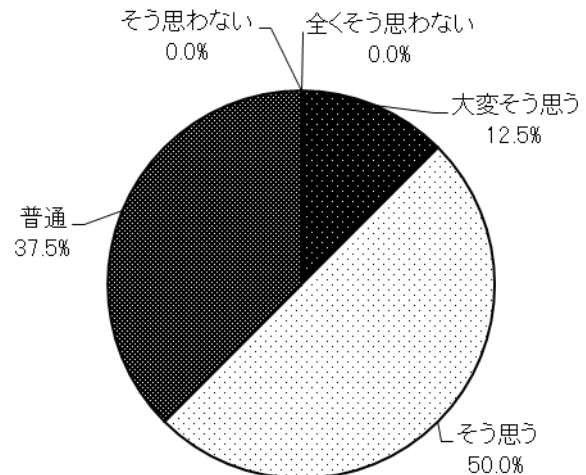


《理由》

- ・初めて聞く用語などがたくさんあり、中々理解するのに時間がかかりそうです。
- ・丁寧に説明があったため。
- ・難しい用語ばかりだったが、わかりやすい説明だった。
- ・理解できる内容だったと思う。
- ・理解できる内容だったと思う。仕事上で知った用語だったので理解出来ました。
- ・普段使わないので理解出来ません。
- ・初めての言葉ですが、漢字とか文章はよく読めばわかりましたが、電子カルテの医学用語、検査などのアルファベット文字などわかりにくいものもありました。
- ・仕事上、理解しているものもありましたが、分からないものもたくさんありました。
- ・医療事務で使っていた用語はわかるが、それ以外は半分も理解も理解出来ないかもしれない。
- ・?となっても解説があったので、あまりとまどうことなく理解できた。講義を聴いているとわかっていくという感じ。
- ・むずかしい言葉が、やっぱり・・・。
- ・聞きなれない用語ばかりで、理解するまでに時間がかかります（辞書を引かないと）。

5. 講座内での解説は、わかりやすかったですか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	2	12.5%
2	そう思う	8	50.0%
3	普通	6	37.5%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	16	100.0%

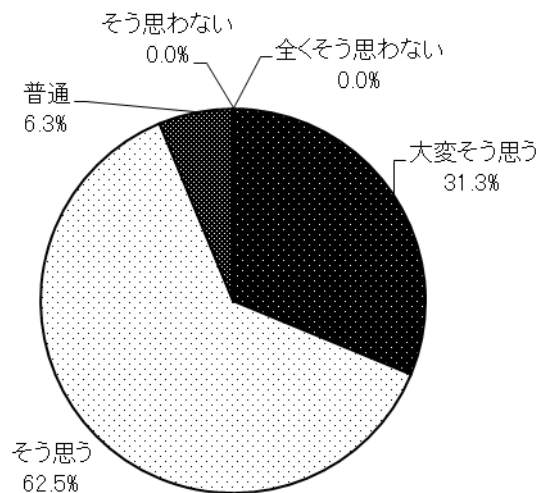


《理由》

- ・ 1回目の時は、書いて説明があり書きながらだったので理解出来るが、2回目の授業は、ほぼ口での説明（テキスト）だけだったので・・・理解出来なかった。
- ・ ポイント、ポイントで詳しい解説があったため。
- ・ 女の先生はわかりにくい。あと、ドクターは人種が違うとか何度も言っていたが、そういう事は学びに来ている人に言わない方が良いと思う。
- ・ 具体例を話してくださったり、現場での例がわかりやすいと思いました。
- ・ もう少し時間をかけて教えて頂けたといいと思いました。
- ・ 先生方が丁寧に教えて下さいまして、わかりやすかった。
- ・ 質問時間があれば良かったと思います。
- ・ 座学のスピードが本当に大切なところをポイントで話してくださってというのだが、あまり医療事務でも習わないところは、もう少しゆっくりちよい深めでもよかったのかな？と思いました。
- ・ わかったり、わからなかったり。
- ・ 医療法規の講座では、本当に覚えておくべきポイントが的確で良かった。又、難しい法律用語もかみくだいて解説してあったのでわかりやすかった。
- ・ 電カルは個人差があるので「隣の人同士で教えあって・・・」は、やめてほしい。自分の知識を深める為に来ているので、教えていると自分がおろそかになって進まなかった。
- ・ 私にも分かり易いように、かみくだいた言葉などを使ってくださって、助かります。でも、覚えることが多く、頭の中を整理するのが大変です。

6. 医師事務作業補助者について理解が深まりましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	14	56.0%
2	そう思う	11	44.0%
3	普通	0	0.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	25	100.0%



《理由》

- ・今回参加して、初めて医師事務という職を知りました。今後、機会があれば医師事務の職に就きたいと思いました。
- ・現場を視察した際には情報などが聞けた。
- ・重要なポイントの説明があり、わかりやすかったです。
- ・最終日の午前中の授業で実感した（映像をみせていただいたので）。
- ・自分が想像していたことだったので、納得できて勉強になりました。
- ・各書類の記入の仕方や、電カルスのオーダーの仕方など、大変勉強になりました。
- ・本当にこの講座だけでやっていけるのか心配。仕事は是非やりたい。
- ・呼称がバラバラで、民間資格の名称もバラバラだが、仕事内容は同じとかあまり実際には聞かない話や、病院側・医師側の話を伺えよりイメージできた。
- ・自分が現在クラークとして行っている業務が、あっているのか・・・という疑問も含めて、改めてクラークとしての業務について、理解出来た。
- ・先生方の病院関係者に聞いた（体験した）具体的なお話はとても参考になった。
- ・医師事務作業補助者という仕事があると初めて知り、医療事務よりもやりがいのある仕事だと思いました。

7. 講座の中で、「興味を持てた」または「将来役に立つ」と思った箇所はどこでしたか。

- ・先生方の熱心な指導に引き込まれ、以前より興味を持つ事が出来ました。
- ・パソコンの授業で、画像を張りつけたり色々なやり方をやってみて、こんなことも出来るのだとびっくりしました。
- ・今回学んだ事を理解出来れば、将来役に立つと思いました。

- ・電子カルテ操作。
- ・SOAP入力。
- ・文書作成。
- ・SOAP入力。
- ・電子カルテ操作や入力のしかた。
- ・今までは医師が作成した文書を見るだけでしたが、実際に作成することができた所です。
- ・電子カルテを実際に入力した事はいずれ役に立つと思う。
- ・文書作成、電子カルテの作成を実際に作ったり、練習操作できたこと。
- ・仕事内容がわかったので、医療の中で業務上役に立つと思った。
- ・SOAPの意味が分かりました。S・O・A・Pのふり分けがまだまだ分からないので、これから学んでいきたいと思います。
- ・医療現場でよく使う言葉の「読み」と「意味」を覚えたいと思いました。
- ・電子カルテを実際に使用して色々作成できたところ。
- ・伊藤先生の文書書き方。「いつ、どこで、誰が、何をした」。
- ・柄沢先生の代行入力。
- ・野田先生のポイント解説と途中で現在の状況や将来の展望が入っていたところ。
- ・電子カルテの入力。むずかしいけど役に立つと思う。
- ・医療用語の読み方。
- ・会話の中からひろって電子カルテに入力する部分。
- ・電子カルテの入力。
- ・文書作成。・文章のまとめ方は、どんな分野にも役立つと感じました。

8. 今回の講座の中で、もっと深く学習したいテーマは何ですか。

- ・パソコンの入力（電子カルテ）。
- ・診断書の書き方・入力。
- ・保険の内容。
- ・専門用語。
- ・SOAP入力。
- ・医学一般について（医学用語等）。
- ・介護に関すること（療養型病院に勤めているため）。
- ・カルテの読み込みや文書作成。
- ・文書作成をもっと勉強したいと思いました。
- ・電子カルテ代行入力。
- ・電子カルテのシステム入力をもっと練習してスムーズに出来るようになりたい。
- ・医療保険制度。

- ・電子カルテの操作の仕方がもっと早くできるようになりたいです。そして、是非とも医師事務作業補助者の資格を取りたいと思います。
- ・医療用語の意味。理解を深めたい。
- ・各種保険制度。
- ・人体の部位。
- ・病名を決定するのは医師だが、それを理解する為にも、病名の決定について薬から病名を推察できるようなので、薬と病名について知りたいと思います。薬と病名・検査と病名など関連性を知りたいです。
- ・電子カルテの入力。入力の仕方を忘れてしまったりして、とまどってしまったりしていたので。
- ・メディパピルス（野田先生がちらっとおっしゃった）。
- ・他の病院のクラーク業務内容をもっと聞いて参考にしたい（具体的な病院）。
- ・ドクターの会話の中か拾って記事にするコツ。
- ・医師事務作業補助者という仕事について、もっと知りたいですし、これを機会に将来につなげたいと思います。

9. その他、何でもご意見をお書きください。

- ・今回、医師事務の授業に参加して仕事の内容を知ることが出来ました。この仕事については、たくさんの医療知識が必要だなと思いました。将来、今回学んだ事を役に立てる時が来るといいなと思いました。また、このような講座があれば参加したいです。
- ・医療事務の経験しかなく、医師事務作業補助者の勉強は初めてでした。すごく難しいイメージがあったのですが、実際に電子カルテや診断書作成などをしてみて、やりがいのある仕事だと感じました。4日間の講座だけでは足りなく、もっと勉強したかったです。先生方もとても分かりやすく、楽しく教えてくださりありがとうございました。また、機会があればぜひ勉強したいと思いました。
- ・テキストが非常に分かりにくい（ごちゃごちゃして読みにくい）。医療事務の経験がある人はまだ良いが。そうじゃない人は大変だと思う。
- ・郡山以外の場所でも開講してほしい。通学が苦痛で途中で辞めなくなった。
- ・野田先生が見せてくれたビデオが良かったです。
- ・医師事務作業補助者が増え就業の場が増えることが希望です。お医者様も助かるし、病院での待ち時間の短縮にもなり、皆が喜ぶと思います。
- ・問題の提出はあったが、回答と解説もあればよかった（時間的に無理かもしれませんが）。
- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・今回この様な機会を設けて頂き、素晴らしい講座を受講させて頂けたことに大変感謝をしております。医療事務の仕事しておりますので、日々の業務で、すぐに役立つことも

たくさん教えて頂けて、勉強になりました。4日間大変有意義な時間でしたが、あっという間でしたので、家で忘れないように復習したいと思います。ありがとうございます。

- もっと時間があれば、深く勉強できたのかな？と思います。本当にこの知識だけで仕事があるのか、出来るのか不安。自信を持って出来るまで勉強するというコンセプトで講座を開講して頂ければ本当の人材育成につながるのではないかと。楽しく勉強できたことに感謝いたします。ありがとうございました。
- 自宅学習なく受講できるようにしてほしいです。せっかくなので、テキストは最大限活用してほしいです。振り返った時、テキストをみればわかるように。
- 電子カルテの入力については、イメージがしにくいので、ロールプレイングゲームのように1度やってみるとよいのでは？と思いました。
- いろいろ問題があるのかと思いますが、席順、名札はあっていると思います。チームを組んで行うなど、みんなで意見を出したり、発表したり、受けるだけでなく、アクションを起こせるといいと思いました（テキストを読むとか）。
- 「中級」とうたっている割には、初歩的な内容が多かったと思う。「上級」コースでは、もう少し深い内容を希望します。
- 経験のない私を今回の講座に参加させて頂き感謝しております。伊藤先生はじめ柄沢先生の1つ1つのお言葉にはげまされて、あきらめずに医療の仕事に就きたいと考えております。4日間ありがとうございます。

4-2. 上級講座 アンケート集計結果

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行」 医師事務作業補助者講座<上級>アンケート結果

■プロファイリング

実施日：平成26年1月11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）

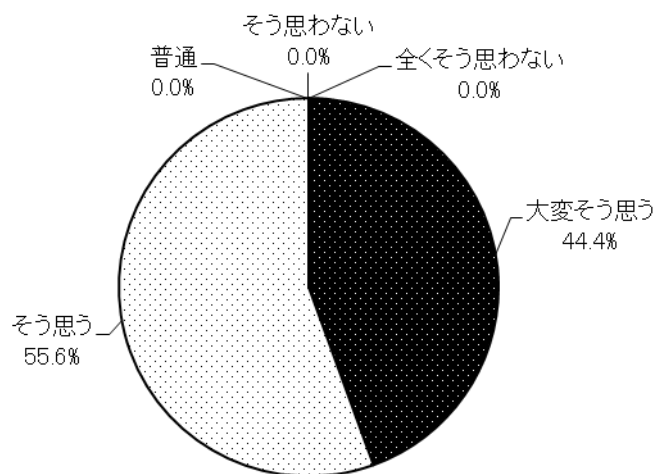
場 所：学校法人郡山学院 ケイセンビジネス公務員カレッジ

対象者：22名

■アンケート結果（回答者18名）

1. 今回の講座全体を通して、将来に役立ちそうな内容でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	8	44.4%
2	そう思う	10	55.6%
3	普通	0	0.0%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100.0%



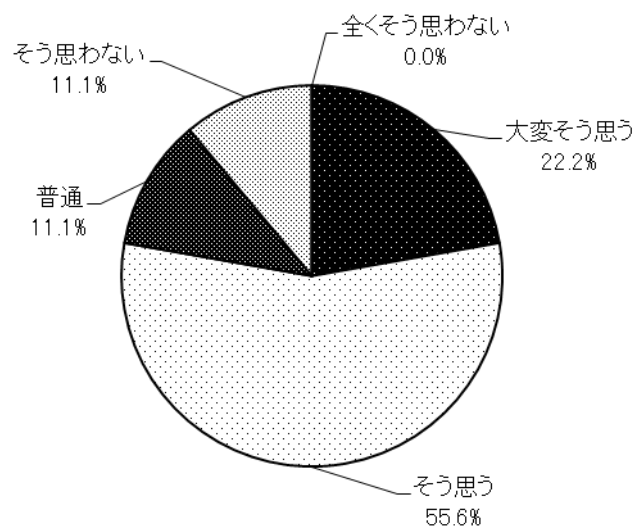
《理由》

- ・これから電子カルテ、医師事務が増えてくると思います。
- ・スキルアップのために役立てたいと思います。
- ・医療機関に勤めていながら（通常、電子カルテも書類もよく目にしておりますが）入力をした事がなかったので、大変ためになりました。
- ・今まで電子カルテは参照するのが専門で、操作は最低限しかしたことがなかった。
- ・今後、電子カルテ導入に向けて予備知識ができ、現場で実践するにあたり自信になりました。
- ・実践に沿った内容でしたので役立つと思いました。

- ・実際に電子カルテの入力を経験できたので、今後、電子カルテが職場で導入された時にも抵抗なく業務を行えそうです。
- ・医学や薬学の知識にも触れて、ソフトを使って実際の操作や文書をまとめる方法を学べたと思う。
- ・もっと練習時間が必要でした。
- ・中級も受講していたので、復習できてよかった。
- ・実際に勤めていればもっと役立つと感じた。
- ・電子カルテを導入しており、これから運用に移行していく中でこの経験は役にたつと思いました。
- ・カルテの代行入力、文書作成など経験できた。
- ・文書作成の仕方。
- ・電子カルテの操作方法。
- ・中級に比べてとても難しかったです。
- ・より一層実務に近づけた気がして改めて将来に役立てたいと思いました。
- ・中級よりもより詳しく実務的な内容だったと思います。

2. 講座の内容は、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	4	22.2%
2	そう思う	10	55.6%
3	普通	2	11.1%
4	そう思わない	2	11.1%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100.0%



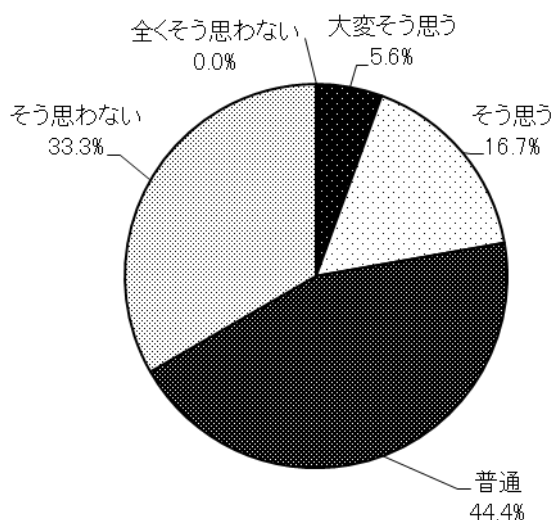
《理由》

- ・自分のために自分なりに勉強になりました。
- ・理解ができていないのか、できていないのか、電子カルテの入力ができていないのか、よく分かりませんでした。
- ・内容は理解できたとおもいますが、手が追いつきませんでした。(コンピュータ操作に手間取りました)
- ・それなりに話の速さについていけないのではないかと思います。
- ・解説も丁寧で分かりやすかったです。

- ・私にとっては少し高度でしたので、理解できたか不安です。
講義→例題という流れだったので、一つ一つ考えながら覚えることができたと思います。
- ・内容は概ね理解できたと思うが、自分の持つ知識が足りず、スムーズに理解したとは言い難いため。
- ・代行入力も文書作成も経験があるため、おおよそ理解できました。
- ・中級は受講していない参加だったので少し理解できないところがありました。
- ・細かい点が抜けてしまったり、正直あいまいな部分もありますが、医師事務作業の全体像が見えてきたと思います。
- ・先生方の指導が分かりやすく、とても楽しく勉強できました。
- ・授業の内容を咀嚼する時間が欲しい。
- ・私の経験不足、勉強不足でついていくのがやっとでした。
- ・専門的な内容もあり時間が少ないような感じで、もう少し勉強したかったです。

3. 講座の内容に対して、時間配分は適切でしたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	1	5.6%
2	そう思う	3	16.7%
3	普通	8	44.4%
4	そう思わない	6	33.3%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100.0%



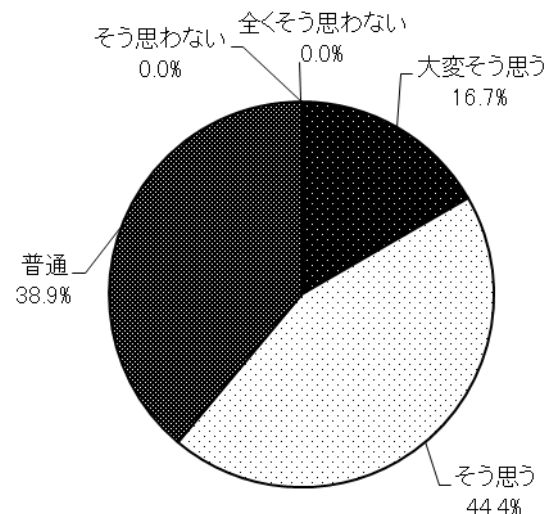
《理由》

- ・入力の時間が欲しかった。
- ・もっとじっくり学びたい。
- ・休み時間が少なく講座がありましたが、入力や要約など頭を使い集中していましたので、早く時間がたちました。
- ・配分内で入力のできたのでちょうど良かったと思う。
- ・内容が充実していたので、1日があっという間でした。
- ・もう少し時間が欲しいです。
- ・どうしても集中力が切れてしまうことがありましたが、休憩を多く設けてくださったのでうまく切り替えができました。
- ・概ね適していたと思う。

- ・ 3日目は休む間もなく具合が悪くなりました。適度な休憩をとっていただきたいと思いました。
- ・ 各自といっても他の方が進んでいると休めません。
- ・ 自分のレベルではもっと時間がほしいと思った。
- ・ 正直、時間が足りないと思います。もう少し深く学んでみたかったです。
- ・ 時間が足りないと思うときがあった。
- ・ もっと講座も深く、電子カルテや文書作成も自分が納得できるまで教えていただきたいかったです。
- ・ 4日間の講座だけでは少ないような感じで、もう少し勉強したかったです。

4. 講座で使用した用語などは、理解できましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	3	16.7%
2	そう思う	8	44.4%
3	普通	7	38.9%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100.0%



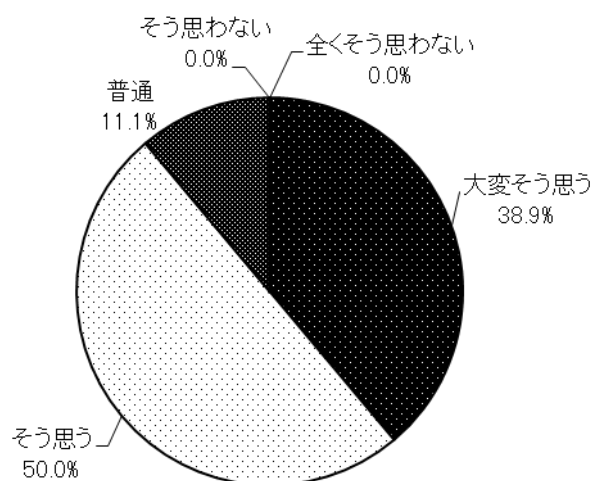
《理由》

- ・ 用語がたくさんあり理解はほんの一部です。
- ・ 忘れてしまいそうな難しい用語もありますが、教材を手本に自宅や勤務先でも活用できたらと考えております。
- ・ だいたい理解できたと思うが、実務で算定等したことがないため、100%ではなかった。
- ・ 分かりにくいところはすぐに解説していただいたので良かったです。
- ・ 用語の説明も丁寧なので理解できました。
- ・ 知らない用語もありましたが、頂いた資料で調べることができました。
- ・ 分からない用語はテキストや先生に質問して納得しながら学ぶことができた。
- ・ 中級に参加していなかったため理解できないところがありました。
- ・ 4日間しかないから仕方ないが、もっと詳しく教わりたかった。
- ・ 一部分を除くと、普段から使っている用語がほとんどだったので気にならなかったです。

- ・難しい用語もありますが、時間をかけて調べれば問題ないと思う。
- ・先生方がなるべく分かりやすく配慮して下さったので。
- ・専門用語は用語集などで確認してもなかなか難しいです。
- ・分からないところは質問ができる環境だったので理解できました。
- ・時々カルテの検査項目でよく分からない略語があった。(用語集にもなし)
例：BS、CKなど

5. 講座内での解説は、わかりやすかったですか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	7	38.9%
2	そう思う	9	50.0%
3	普通	2	11.1%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100.0%

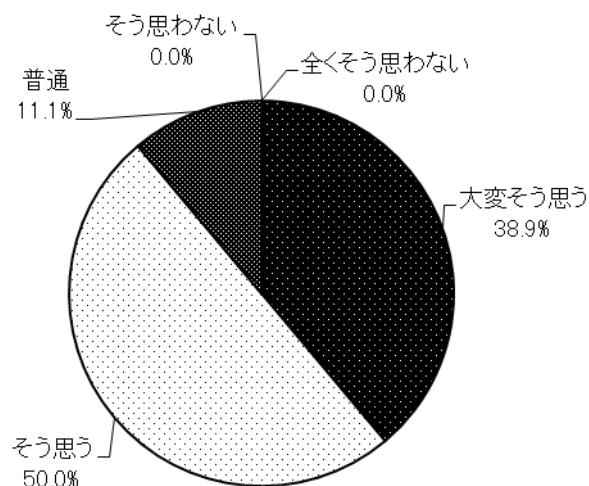


《理由》

- ・他病院や教え場の例などもまじえて分かりやすく、解説していただきました。
- ・医師事務についてほぼ何も知らなかった私でも入力、文書作成がなんとかできたのでかなり分かりやすかったと思います。
- ・理解できず立ち止まることもなかったので良かったです。
- ・先生方が丁寧に教えてくださったので分かりやすかったです。
- ・資料に沿った内容であったので分かりやすかったです。
- ・用語等の専門性が高く、どうしても理解がスムーズではなかったが、先生方の解説が丁寧で分かりやすかった。
- ・先生方の解説はとても良かったです。ありがとうございました。
- ・もう少し時間があれば良かったと思いました。
- ・途中スピードが追いつかないことはありましたが、解説はとても分かりやすかったです。
- ・特に伊藤先生、古川先生は分かりやすかった。
- ・先生方が分かりやすく伝えようと努力して下さったので。
- ・例題などを用い説明して下さったので分かりやすかったです。
- ・少しペースが早いと思うときもありましたが、具体的な話もあり分かりやすかったです。

6. 医師事務作業補助者ついて理解が深まりましたか。

No	項目	回答数	回答率
1	大変そう思う	7	38.9%
2	そう思う	9	50.0%
3	普通	2	11.1%
4	そう思わない	0	0.0%
5	全くそう思わない	0	0.0%
	合計	18	100.0%



《理由》

- ・単純にクランクと思っていたので、その他（内容）の理解が少し深まりました。
- ・ドクターが置かれている状況などを聞き、いかに需要が高まっているか分かりました。
- ・今後より一層、医師事務の仕事が重要になると思いました。
- ・大変重要な役割だと実感しました。
- ・現在、医療課に所属していますが、電子カルテはあくまでもカルテであって、算定とはまた別の視点が必要であると感じました。
- ・現在の日本の医療現場での状況を理解した上で、文書作成や電子カルテ操作について学べたため。
- ・業務についてまだ4か月だったので、どれも勉強になりました。今後活かしていきたいと思えます。
- ・現在、医事課に所属しているが、今後、文書作成やカルテ入力などドクターの補助ができれば良いと思う。
- ・受講するまで詳しく知らなかったのが具体的に体験できて良かった。
- ・漠然としていたものが明確になってきたように感じました。
- ・どんな内容の仕事かやるべき事は何か理解できた。
- ・やはり範囲が広いと思いました。
- ・少しずつ理解できてきたように思うが、国として方向性を打ち出さなければ現場ごとに解釈が違うのでは？と思いました。
- ・まだまだ経験不足ですが、医師の手助けのできるやりがいのある仕事だと思います。
- ・中級、上級と受講して大変だけれどやりがいのある仕事だと思います。
- ・時々、先生方の教え子の実話や先生方とドクターとの会話など、実際の診察室での様子をうかがうことが出来て、他の病院の実態が分かり参考になりました。

7. 講座の中で、「興味を持てた」または「将来役に立つ」と思った箇所はどこでしたか。

- ・ 医師事務作業補助。
- ・ 電子カルテ入力
- ・ 文書作成。
- ・ 電子カルテの入力。
- ・ 書類の作成。
- ・ スペシャルクラークがすばらしい。
- ・ 自分の今やるべきこと。
- ・ 自分が大きな病院を受診したときに「ドクターの隣（近く）にいる人は誰だろう？」と怪しまなくてすむこと（仕事内容が分かっているの）。
- ・ 電子カルテの運用方法。
- ・ SOAPの見方。
- ・ 全て。
- ・ カルテ記入の基礎SOAPです。当院は紙カルテです。
- ・ SOAPを明確に記載される先生は少ないように思いました。しかし今回SOAPを学べたので、たとえ分類されていなくてもSOAPの視点でカルテを読みとけばさらに理解を深めることができそうだと感じました。
- ・ 現在の医療事務作業補助者に求められること。
- ・ 電子カルテ入力でのSOAPに沿った文書作成方法。
- ・ 文書作成におけるカルテから要点をまとめる方法。
- ・ 他病院の医師事務作業補助者の体制について大阪高槻病院や金沢脳神経外科等での運用に興味を持ちました。
- ・ 代行入力はいずれからの業務に役立つと思いました。
- ・ まずは入力の練習をして慣れることが大事ですし、SOAPの意味も理解してきたので今後につなげたいと思います。
- ・ 文書作成。
- ・ SOAP入力。
- ・ 先生方の経験談。
- ・ 電子カルテを学べたこと。
- ・ 注射のアンプルなど、医事の内容を捨てて、実際に行ったもののみ入力する点が今後活かせると思います。
- ・ 患者様と医師のやりとりでの代行入力はどうすべきか。
- ・ 入院診療診断書の作成の仕方。
- ・ 電子カルテ

- ・ 文書作成
- ・ 電子化
- ・ 医師事務作業補助者の研究会が発足していたこと
- ・ 電子カルテの入力、文書作成
- ・ 電子カルテの入力
- ・ 文書の作成

8. 今回の講座の中で、もっと深く学習したいテーマは何ですか。

- ・ 医師事務作業補助。
- ・ 電子カルテ入力。
- ・ SOAPのやりとり。
- ・ SOAPの見分け。
- ・ 医師に代わり、電子カルテ入力の際の語彙力、絞込みや打ち込み(パソコンスキル)。
- ・ 電子カルテの操作。
- ・ 文書作成。
- ・ 文書作成。
- ・ 今回使用した電子カルテでも会計が作れましたが、実際には同時算定できないものも入力しました。
- ・ 実際に請求を作る際は別のソフトを使っているのかな？と少し疑問に思いました。
- ・ 電子カルテ入力でのSOAPに沿った文書作成方法。
- ・ 文書作成におけるカルテから要点をまとめる方法。
- ・ 文書作成業務について、特に、診断書。
- ・ 現在の業務は主に書類関係なので書類作成についてもっと学びたかったです。
- ・ 主治医意見書。
- ・ 死亡診断書。
- ・ 介護に関すること。
- ・ 全体を通して参加してよかったと思います。
- ・ 保険会社へ提出する書類。
- ・ 人体の構造、組織、器官。
- ・ 主治医意見書について。
- ・ 文書作成（主治医意見書など学習したかった）。
- ・ 電子カルテの操作入力は”SOAP”の判断、要約がうまく出来ず、ポイントを絞るところを繰り返し学習したかったです。
- ・ 文書の作成。
- ・ 最終日にやった文書作成をもっといろいろな書類でやりたかった。

- ・最近、うちの病院では生保の「入院・手術証明書」はもちろんのこと、「主治医意見書」「医療安否意見書」が多いので学びたかった。
- ・自賠責の診断書もやりたかった。

9. この講座で良かったと思うところをお書きください。

- ・すべて良かった。
- ・電子カルテ操作を少しできるようになった。
- ・全くわからない事（医学）に少し入れた。
- ・隣の人に聞きながら、というところ。
- ・普段の仕事の中ではなかなか勉強できないところだったので、改めて勉強することができ、日々の業務に役立つと思いました。
- ・全て。
- ・複数の先生方のお話が聞けたのが良かったです。
- ・いろんな現場の様子が知れました。
- ・分からないところをその場で先生に確認しながら進めた点。
- ・代行入力のポイントを実際に学べた点。
- ・もっと実習の時間が増えたらいいと思います。
- ・とても楽しくできた。
- ・今回は宿題がなくて良かった。
- ・熱心な指導を受けられたこと。
- ・もっと回数が増えて、時間に余裕があり幅広くできたらいいなと思います。
- ・楽しく集中して勉強ができたこと。
- ・やっているうちにパソコンの入力が少し早くなった。
- ・自分でもここまでは出来るんだと実感できた。
- ・医師事務作業補助者の成り立ちの歴史と各病院の取り組みについて学習できたところ。
- ・やはり今回も先生方のお言葉、明るさで勇気付けられました。
- ・今後も医療の仕事に就くことをあきらめずに進みたいと思います。
- ・実際に電子カルテを使っでの入力や文書作成ができたところです。
- ・他の病院でのクラークの仕事の紹介（ビデオにて・中級とかぶるところもありましたが）。
- ・今後のクラークという仕事の方向性について（現状の病院についてのお話）。
- ・会話形式のカルテから電子カルテに入力する作業。

10. この講座で改善してほしいと思うところをお書きください。

- ・時間が欲しい。
- ・年間回数（1年に1回？2回？）。
- ・練習問題をやる時間がもう少しとれば良いと思います。
- ・時間が足りないと感じた。
- ・もっと時間をかけてより深く学びたいと感じた。
- ・診断書作成についてもう少し深く勉強したかったです。（診断書ごとの意義や作成時の注意点。例：身障者手帳、年金診断書等）
- ・駐車場の使用許可。車で通学したい。
- ・貴重な時間をありがとうございました。
- ・32時間ではなく60時間ぐらい欲しいです。そうしたら分からないところの質問、パソコンの操作などもっと深く理解が出来たかなと思う。
- ・講座ごとの時間配分。
- ・野田先生が情報処理の講座をするなら、電子カルテとコラボしてもいいと思う。
- ・オーダリングの説明を口頭でするならパソコンでしてみればよく分かると思う。
- ・時間を増やしていただきたい。
- ・できれば4日間ではなく、もう少し時間があつたらいいと思います。

11. その他、なんでもご意見をお書きください。

- ・今回講座に参加して今の自分をふりかえることができました。
- ・自分は医療の知識不足で授業もやっとなついていきましたが、先生方がやさしく教えてくださったので、とても楽しくできました。
- ・また機会があればうけたいと思います。ありがとうございました。
- ・今回の講座では内容を理解するのが必至でまだまだ知識など足りないけれど、もう少し勉強して資格に挑戦してみようかなと思えました。
- ・ご指導ありがとうございました。
- ・午前中はいつも教室が寒かったです。
- ・貴重な経験をさせていただき誠にありがとうございました。
- ・今回受講する機会をありがとうございました。
- ・今年ももうこのような講座はないのでしょうか？
- ・とにかく楽しく集中して勉強が出来たことがとても嬉しい。
- ・年齢に関わらず、努力はしていきたいなど再度確認させていただきました。
- ・ありがとうございました。
- ・またどこかで生徒同士、先生方にお会いできたらと切に願っております。

- ・ 医師事務作業補助者の研究会の方々の授業を受けてみたい。
- ・ 今回テキストがきれいではなかった（ホチキスが均等でない、紙がバラバラ、ページ数なし）ので、使いやすいテキスト作成をお願いします。
- ・ 中級、上級と受講して、医療事務の経験も活かせる医療事務作業補助者の仕事に就きたいと思いました。
- ・ あっという間の4日間でしたがありがとうございました。また機会があれば受講したいです。
- ・ またこのような講座があったら参加したいです。
- ・ すべて良かった。
- ・ 電子カルテ操作を少しできるようになった。
- ・ 全くわからない事（医学）に少し入れた。

4-3. 講座風景



5. 視察調査報告

①岩手県、宮城県、福島県の医療機関の復旧・復興状況

2011年3月11日の東日本大震災から約3年。被災3県（岩手県、宮城県、福島県）の医療機関の復旧・復興はいまだ途上にある。厚生労働省、県の発表した医療機関の現状をもとにしてまとめた。

◎岩手県

岩手県沿岸部にある病院は、東日本大震災の津波によって病床数が激減し、気仙医療圏は震災前が791床あったのが震災後は744床、釜石医療圏は1,019床が945床、宮古医療圏は1,468床が1,378床と激減している。久慈医療圏だけは757床が757床で震災前に回復している。岩手県の県立病院では、高田病院が136床、大槌病院が121床、山田病院が60床の病床数を有していたが、現在、高田病院が仮設病院に41床を設けることができ、大槌病院、山田病院は病床0の状態が続いている。

岩手県は、大槌病院、山田病院を2016年度、高田病院を2017年度に移転開院する方針を示しているが、病床数は震災前の水準から20%程度削減するとしているが、それでも医師確保の見通しが立っていない。岩手県の医療機関がすぐに復興できなかった原因の1つは医師・看護師の不足である。建物を元通りにしたところで、人材が確保できなければ震災前と同じレベルの医療は提供できない。また、被災地から人が流出して人口減少しているため、患者数の減少によって病院経営が厳しくなっているのも事実である。沿岸部の医療圏では患者の流出が続いており、例えば気仙医療圏では震災前に比べて患者数が32.9%減少、宮古医療圏では17.1%減少しており、今後の病院運営は厳しいといえる。

◎宮城県

医療施設の被害の大きかった気仙沼、石巻医療圏は、公立病院の再建が具体化してきた。気仙沼医療圏では、南三陸町内に外来診療部門を残しながら登米市米山町に移転した公立志津川病院が、同町内に新病院を2015年4月に開業する計画を検討している。石巻医療圏では、石巻市立、市立雄勝、恵愛の3病院が休止中で、市立病院は2012年5月に仮設診療所を設置し、2016年7、8月の新病院開院に向け基本設計に着手している。圏内の医師とベッド数が足りず、急性期の患者を受け入れている石巻赤十字病院は、症状が安定した患者の受け入れ先の確保に苦慮している。仙台（宮城野区、若林区）、塩釜はほぼ震災前まで回復している。

◎福島県

福島県は、東日本大震災前の平成22年と比較し、病院は10カ所、診療所は60カ所も減少している。岩手県は、病院が3カ所減ったが、診療所は震災前の数に回復している。宮

城県は、病院が4カ所減ったが、診療所は震災前より増えており、福島県の「医療過疎」の進行が目立っている。

県によれば、県全域で医療従事者が流出している。県内の病院に勤務する常勤医は震災前から64人減り1,960人となった。中通りの郡山市での減少も顕著で、病床をフル稼働させない医療機関もある。またもともと医師が少ないいわき市は原発事故の避難者が増え、外来の混雑が目立つ。

②視察概要

2008年4月の診療報酬改定に伴い医師事務作業補助者という職名が誕生して5年が経過し、この職種が医療機関に確実に定着しつつある。医師不足による地域医療の崩壊、診療科の閉鎖、また、産婦人科や小児科など時間を問わず生死に関わる医療に飛び込む医師の減少している中で、医師本来の診療業務に専念してもらうこと、また、医師の労働環境を改善するだけでなく生産性を向上させる効果をもたらす医師事務作業補助者の存在は重要な役割を担っている。

事業を推進するにあたり、誕生して5年経った医師事務作業補助者の人材像を明確にし、カリキュラムや教材の再構築を行うため、その採用と配置、業務スキル、業務内容、また被災地の医療機関として対応していることなどを委員が直接訪問し、医師や従事者、事務管理者からヒアリングを行った。

視察先とスケジュールは以下のとおりである。

- (1) 平成25年8月26日(月) 大阪：社会医療法人 愛仁会 高槻病院
- (2) 平成25年8月28日(水) 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院
- (3) 平成25年8月29日(木) 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
- (4) 平成25年10月24日(木) 広島赤十字・原爆病院
- (5) 平成25年11月5日(火) 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
- (6) 平成25年11月5日(火) いわき市立総合磐城共立病院
- (7) 平成25年11月7日(木) 医療法人 松田会 松田病院
- (8) 平成25年11月7日(木) 医療法人社団赤石会 赤石病院

③視察内容

視察先8か所の詳細内容は次のとおりである。

(1) 社会医療法人 愛仁会 高槻病院

図 1-1 社会医療法人 愛仁会 高槻病院



1-1 視察先の概要とプロフィール

大阪府高槻市にある「社会医療法人 愛仁会 高槻病院」は、昭和 52 年に開設された。病床数は 477 床で地域の中核病院である。当院は、急性期病院、地域医療支援病院、総合周産期母子医療センター、臨床研修病院、市民病的役割を果たすための病院としての使命を持っている。

「患者さまの満足する医療」を病院の理念とし、5つの基本方針で病院運営を行っている。

- ・急性期病院として、診療機能の高度化・専門化を図り、常に医療サービス内容の充実に努める。
- ・地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携、救急医療の提供、地域医療従事者の資質向上のための研修など、地域における医療の確保のために支援を行う。

- ・総合周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療施設等と連携を図り、母体または児におけるリスクの高い妊娠に対する医療及び高度な新生児医療等の周産期医療を提供する。
- ・臨床研修病院として、医師の人格涵養、診断能力修得の指導に努め、優秀な医師を輩出する。
- ・市民病院的役割を果たすため、市民の健康診査、健康教育等、保健事業の推進に積極的に関わり、生活習慣病の発症予防等に寄与する。

近年、当法人は高槻駅周辺地域に新築移転が続いている。平成23年7月に愛仁会リハビリテーション病院が高槻病院南側に移転し、平成25年4月には高槻病院西に愛仁会看護助産専門学校が新築移転した。また、高槻病院も病院北側で新高槻病院に向けて工事が始まり、1) 質の高い地域医療の提供、2) 周産期医療・小児医療・救急医療の充実、3) 患者さまにやさしい急性期病院、4) 職員にやさしい急性期病院、5) 人材育成の5つのコンセプトを基にして新高槻病院の建設を行っている。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	社会医療法人 愛仁会 高槻病院
住 所	〒569-1192 大阪府高槻市古曽部町1丁目3番13号 TEL 072-681-3801 FAX 072-682-3834
病 院 長	家永 徹也
開設年月日	昭和52年11月
病 床 数	一般病床 477床
診 療 科 目	内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、総合診療科、神経内科、神経科、初期物忘れ外来、小児科、新生児小児科、小児外科、小児脳神経外科、産科、婦人科、外科、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線診断科・放射線治療科、病理診断科、麻酔科
認 定 施 設	臨床研修指定病院 総合周産期母子医療センター (MFICU NICU) 地域医療支援病院 開放型病院 Baby Friendly Hospital (WHO/ユニセフ) 大阪府がん診療拠点病院 (財) 日本医療機能評価機構 病院機能評価認定
学 会 認 定	日本外科学会、日本内科学会、日本胸部外科学会、日本循環器学会、日本糖尿病学会、日本小児外科学会、日本泌尿器科学会、

		日本整形外科学会、日本眼科学会、日本神経学会、 日本医学放射線学会、日本心血管インターベンション学会、 日本脳卒中学会、日本周産期・新生児学会、日本精神神経学会、 日本がん治療認定医機構、日本産婦人科学会、日本小児科学会、 日本病理学会、日本消化器病学会、日本皮膚科学会、 日本脳神経外科学会、日本胸部疾患学会、日本消化器内視鏡学会、 日本麻酔科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器外科学会、 日本耳鼻咽喉科学会、日本消化器外科学会、 日本周産期・新生児学会、日本小児神経学会、日本手の外科学会
沿	革	1958年11月 大阪市西淀川区にて法人設立認可
		1977年11月 法人第二病院として高槻病院竣工開院(180床)
		1980年4月 NMCS(大阪府新生児診療相互援助システム)参加
		1982年4月 現在地に新築移転(302床)
		1983年4月 旧高槻病院建物を理学診療科病院 (現、愛仁会リハビリテーション病院)として 再開院 201床
		1987年4月 OGCS(大阪府産婦人科診療相互援助システム)参加
		1987年8月 高槻病院増築棟竣工(477床) コミュニティーホール「アイワホール」設立
		1987年10月 ボランティア「マザーグース」発足
		1990年10月 大蔵省より特定医療法人として認可
		1992年10月 院外処方開始
		1995年11月 オープン検査システム開始
		1997年4月 厚生省臨床研修病院認定
		1997年12月 開放型病院届出
		1998年2月 訪問看護ステーション開設
		1998年5月 日本医療機能評価機構病院機能評価認定
		1999年1月 救急告示
		1999年10月 ケアプランセンター「愛仁会高槻」開設
		1999年11月 ホームヘルパー(2級)養成講座開講
		2001年8月 高槻病院東館(増築棟)竣工、 総合周産期母子医療センター開設
		2003年10月 日本医師会生涯教育講座開講
		2003年12月 日本医療機能評価機構による病院機能評価更新認定
		2004年2月 電子カルテ稼動
		2005年8月 特別医療法人認可

- 2005年 12月 大阪府知事より地域医療支援病院名称承認
- 2006年 4月 D P C 対象病院
- 2006年 12月 看護基準7:1取得
- 2008年 2月 病院機能評価認定3回目 (Ver5.0)
- 2008年 8月 赤ちゃんにやさしい病院 (BFH) 認定
- 2008年 10月 卒後臨床研修評価認定 (JCEP)
- 2009年 1月 社会医療法人認定
- 2009年 3月 大阪府がん診療拠点病院認定
- 2011年 7月 高槻病院解体改修工事開始
(高槻未来プロジェクト)
- 2011年 7月 高槻病院外来移転
(愛仁会リハビリテーション病院竣工)
- 2012年 5月 標榜科目変更
- 2012年 12月 救急協力診療科追加
- 2012年 7月 日本病院会 QI プロジェクト参加
- 2013年 6月 日本医療機能評価機構病院機能評価 Ver. 6.0 認定

図1-2 アクセスマップ



- ・ JR 高槻駅 徒歩7分
- ・ 阪急高槻市駅 徒歩12分

1-2 視察先選定理由

高槻病院は、30 数年以上前から現在の「医療秘書」にあたる事務系スタッフを採用している。医師は本来の診療業務に集中し、電子カルテの入力や文書作成などの事務業務は医療秘書がサポートすることにより、医師としてのパフォーマンスを上げることを目的として採用している。

平成 20 年度「医師事務作業体制加算」が新設された際、医師事務作業補助者のモデルケースとして平成 20 年 10 月に当院をヒアリングした。当時、事務スタッフ約 100 名のうち半分近くが医療秘書であり、医師事務作業体制加算の点数は 25 対 1 補助体制加算を届出していた。この施設基準であれば 16 名を配置すれば基準を満たすが、その 3 倍もの医療秘書を採用し、すべて専任の職員であった。その理由は、病院に対しての帰属意識や仕事に対するモチベーションが高くなるためである。また、ヒアリング協力者であった「医療秘書科」の科長は、現在事務部長にキャリアアップしていた。

今回、高槻病院を視察先とした理由は、常に先進的な取り組みを行っている当院の医師事務作業補助者の採用と配置、業務スキル、業務内容などについてヒアリングを行った。

1-3 ヒアリング内容

日 時	2013 (平成 25) 年 8 月 26 日 (月) 15:00~17:00
場 所	社会医療法人 愛仁会 高槻病院
協力者	母子系医療秘書科 科長 村上 尚子 氏 成人系医療秘書科 科長 車田 絵里子 氏
参加委員	清水、高橋、伊藤、柄沢、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院では、医師事務作業補助者のことを「医療秘書」と呼んでいる。外来と病棟を合わせて医療秘書は 64 名おり、そのうち医師事務作業補助体制加算の対象者として届けているのは 52 名である。男性の医療秘書は 2 名、主に手術室で使用薬剤の入力を行っている。医師事務作業補助体制加算の算定区分は、「15 対 1」を届出ている。

医師事務作業補助者を採用することにより、「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」を期待している。

配置に関しては、四年制大学を卒業した者を採用し、研修を行い、業務スキルやコミュニケーション能力などの適性をみて配置している。プリセプター制度があり、新人には先輩がついて医師事務作業補助者の業務をサポートしている。

・医師事務作業補助者の業務スキル

当院が必要とする医師事務作業補助者の専門知識は、コンピュータ知識やコミュニケーション能力は必須であるが、文書作成を行うために必要な能力は、文章を要約する能力、

語彙力、カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造）、薬学知識（処方箋、薬物療法）、簡単な病院統計学、個人情報保護などである。実際、診療室に配置された医師事務作業補助者に対して医師からは、医学用語や病院特有の用語などがわかる人材を配置してもらいたいとの要望もあり、医師や看護師を講師とした臨床研修の充実を図っている。

・医師事務作業補助者の業務内容

当院の医師事務作業補助者の業務内容は、文書作成の代行業務と検査予約などのオーダー代行入力や電子カルテへの代行入力、処方箋や診察予約の代行入力を行っている。これらはすべて医師の指示のもと行っており、実施前には必ず医師に確認を行っている。

文書作成の代行業務として、院外提出文書：、紹介状・診療情報提供書・生命保険会社に提出する書類・介護保険の主治医意見書・各種公費申請書、院内文書：入院診療計画書・退院証明書・退院療養計画書・退院サマリー、以上を一部もしくは全代行している。死亡診断書、傷病手当金意見書、療養費同意書などについても同様である。各種公費申請に関しては、医師や MSW からの求めがあって申請を開始しているのが現状であるが、医療秘書でも対象者をキャッチし、逆に医師に申請をアプローチできるようなレベルであることが望ましく、先に述べた臨床研修の充実にこういった視点も盛り込んでいく計画がある。

また、医師の学術支援も積極的に行っており、学会事務局運営や各種研修会の企画運営などの実績がある。

(2) 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院

図2-1 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院

医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院

〒921-8841
石川県野々市市郷町262-2
☎076-246-5600

交通アクセス
お問い合わせ

ホーム | ご来院の方へ | 病院の紹介 | 医師・部門の紹介 | 病院の実績 | 病院の取り組み | 採用の情報

信頼と満足の得られる医療の提供に努めます

金沢脳神経外科病院の4つの特徴

- 脳卒中センター
- 脊椎センター
- リハビリテーションセンター
- 医療療養病棟

診療時間

【平日】
午前受付 8:30~11:00
(診療開始) 9:00~
午後受付 13:30~15:00
(診療開始) 14:00~

【土曜日】
午前受付 8:30~11:00
(診療開始) 9:00~

休診日

日曜日
祝日

公式Facebookを始めました!!「いいね!ボタン」のご協力をお願いします(・∀・)
公式Facebookはこちらから
いいね! 162人が「いいね!」と言っています。Facebookに登録して、友達「いいね!」を見てみましょう。

2-1 視察先の概要とプロフィール

石川県野々市市は、石川県の中心部にあり、金沢市のベッドタウンとして発展を続けている。東洋経済新報社による「住みよさランキング2013」総合評価第2位が野々市市である。金沢市近郊という利便さから介護施設なども充実、高齢者人口の比率の低さに加え、金沢市の20%通勤圏で「人口当たり病院・一般診療所病床数」の指標で金沢市の数値を採用したこともあり、「安心度」で全国1位である。また大型商業施設も多く、金沢市をはじめ近隣から多くの買い物客らが集まるため「利便度」でも全国1位。さらに「快適度」は5位、3部門で全国トップクラスの評価となっている。

金沢脳神経外科病院は、「住みよさ」第2位の野々市市の中心部より西側にあり、最寄り駅であるJR北陸本線松任駅から車で10分程度の位置にある。当院は、脳卒中センター、脊椎センター、リハビリテーションセンター、医療療養病棟の4つの特色を持つ脳神経外科の専門病院である。「脳神経外科専門病院として、私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。」という理念のもと、6つの基本方針によって患者に対して医療を提供している。

1. 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。

2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院
住 所	〒921-8841 石川県野々市市郷町 262-2 TEL 076-246-5600 FAX 076-246-3914
病 院 長	佐藤 秀次
病 床 数	一般病床 60 床（脳卒中ケアユニット 9 床を含む） 療養病床 160 床（回復期リハビリテーション病床 106 床を含む）
診 療 科 目	脳神経外科、神経内科、循環器内科、麻酔科、 リハビリテーション科
専 門 外 来	脊椎専門外来、もの忘れ専門外来
面 会 時 間	午前 11 時～午後 8 時まで
指定及び届出施設基準（平成 24 年 9 月 1 日現在）	保険医療機関 日本脳神経外科学会認定医研修病院 日本脳卒中学会教育研修病院 協力型臨床研修指定病院 日本麻酔科学会認定病院 社会保険病院 救急指定病院 労災保険指定病院 国民健康保険病院 自立支援法指定病院 生活保護法指定病院 身体障害者福祉法指定病院 一般病棟 7 対 1 入院基本料 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 療養病棟入院基本料 1 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 一般病棟 7 対 1 入院基本料

回復期リハビリテーション病棟入院料 1
 療養病棟療養環境加算 I
 療養病棟入院基本料 1
 重症患者等療養環境特別加算
 療養環境加算
 診療録管理体制加算
 救急医療管理加算
 医師事務作業補助体制加算 25 対 1
 急性期看護補助体制加算 50 対 1
 データ提出加算 2
 退院調整加算
 地域連携退院時指導料 I
 感染防止対策加算 2
 入院時生活療養費 I
 地域連携診療計画管理料
 運動器リハビリテーション料 I
 入院時食事療養費 I
 麻酔管理料 I
 脳血管疾患等リハビリテーション料 I
 夜間休日救急搬送医学管理料
 集団コミュニケーション療法料
 検体検査管理加算 I
 外来リハビリテーション診療料
 脳・脊髄刺激装置植込、交換術
 薬剤管理指導料
 CT 撮影及びMR I 撮影
 救急搬送患者地域連携紹介加算
 救急搬送患者地域連携受入加算
 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6 に掲げる手術

2-2 視察先選定理由

当院の医療秘書室主任である矢口氏は、特定非営利活動法人「日本医師事務作業補助研究会」理事長でもある。この「医師事務作業補助研究会」は、医師事務作業補助者の実務能力の向上と業務環境の改善、医師時作業補助領域の開発及び普及を図ることにより、病院勤務医の業務負担軽減に貢献し医療の質の向上に寄与することを目的として、平成23年5月に発足した。現在、全国大会や地方会などのセミナーを積極的に展開運営しており、セミナーを通して医師事務作業補助者の悩みや問題点など情報を共有し、改善点を策定して実務に役立て行く取り組みがなされている。

今回、金沢脳神経外科病院を視察先とした理由は、研究会の理事長である矢口氏から医師事務作業補助者の採用ポイントや配置、業務スキル、業務内容、将来性などについてヒアリングするとともに、当院の病院長であり研究会事務局長でもある佐藤氏から、医師の立場からみた医師事務作業補助者の業務内容や将来性などについてヒアリングを行った。

2-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年8月28日（水）15:00～17:00
場 所	医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院
協力者	病院長 医療秘書室 室長 佐藤 秀次 氏 医療秘書室 主任 矢口 智子 氏
参加委員	伊藤、柄沢、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は10名。医師事務作業補助者としての業務歴は、5年目1名、3年目1名、1年目8名である。今後は、医師事務作業体制加算点数と病院経営のバランスを考えて採用をしていきたい。医師事務作業補助者を採用することにより、「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「医師の定着」「患者サービスの向上」を期待している。特に、医師事務作業補助者が事務業務にあたることは、医師本来の診療業務に集中できるメリットが大きく、手術の回数増や外来患者の診察予約の増加など経営への貢献度が高い。事務職員を医師事務作業補助者として配置する場合、コミュニケーション能力がある、正確な仕事（ミスが少ない）ができる人などを主に配置している。

・医師事務作業補助者の業務スキル

当院が必要とする医師事務作業補助者の専門知識は、文章を要約する能力と語彙力があることが特に重要であり、簡潔明瞭に書ける能力が必須である。カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造）、薬学知識（処方箋、薬物療法）、簡単な病院統計学、個人情報保護などは院内研修で教育を行っている。また、診療報酬の知識や薬剤の知識、配置される診療科の専門的

知識が必要である。主治医意見書を作成する際、カルテに書かれている内容だけではなく、患者またはその家族にも聞いて情報収集している。医師が書いたカルテを読み込んで文書作成をするため、医学用語や略語などの知識を今後研修などで積極的に学べるよう充実させていく予定である。

・医師事務作業補助者の業務内容

当院の医師事務作業補助者の業務内容は、電子カルテへの代行入力、診療録の一部と診療予約の入力を行っており、オーダー入力と処方箋入力などについては今後予定している。文書代行作成は、10人全員が業務にあたっており、院外に提出する文書は、紹介状、診療情報提供書、生命保険会社に提出する書類、介護保険の主治医意見書を作成している。院内文書では、院内案内文書、手術（承諾書、診断書）、入院（契約書、証明書、予約表）、退院サマリー、検査等の承諾書を作成している。死亡診断書、傷病手当金意見書、療養費同意書も作成している。

病院長からは、当初考えていた以上の仕事をしてもらっており、配置してから医師の事務業務の負担が軽減している。本来医師が作成しなくてはならない紹介状などの文書や手術記録も代行して作成してもらい、大変助かっている。

・医師事務作業補助者の将来性

医師事務作業補助者は、今後、人気が出る職種だと思う。今年初めて専門学校から4名の2週間インターンシップを受け入れた。最初は専門学校で学んだ知識で仕事を行う医療事務職を考えていたようであるが、医師事務作業補助者の業務を経験した結果、インターンシップ後は、医師事務作業補助者になりたいと全員が感想を述べていた。この職種は、医師と患者の間に入って行う業務であり、大変やりがいのある仕事だと思う。現在、医師事務作業補助者も不足しているため、ぜひ教育を受け、医師事務作業補助者としての業務にあたってもらいたい。

(3) 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院

図3-1 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院



3-1 視察先の概要とプロフィール

札幌市手稲区は、札幌市の西側に位置し小樽市と石狩市に接している。交通の便はよく、国道5号沿線地区であり札幌自動車の手稲インターチェンジもある。また JR 手稲駅は、札幌駅から快速や普通列車で10分～15分程度の距離にあり、手稲区は札幌中心部のベッドタウンとして発展している。

手稲溪仁会病院は、JR 手稲駅に隣接し、駅北口より徒歩2～3分にある利便性の良い病院であり、当地域の地域医療支援病院である。365日24時間急性期救急医療体制構築をはかり、救命救急センターとドクターヘリ基地病院の指定を受け、2007年に救命救急棟を開設した。この救命救急棟には、救命救急センター、集中治療室、手術室の中央3部門を同一棟内に包括するという画期的な取り組みを行っている。

「患者主体の医療に徹する。地域に開かれた病院を目指す。高度の医療もわかりやすく提供する。学習機会の積極的活用による前向きなチーム医療を実践する。」を病院の理念とし、患者の権利を約束している。

- ・私たちは患者さまお一人お一人の意識を最大限に尊重して接します。

- ・私たちは診断・検査・治療計画等についてわかりやすく説明いたします。
- ・最終的な治療方針の決定は患者さま個人の意思を最も尊重します。
- ・主治医・看護師をはじめ職員の説明がわかりにくい場合や疑問がある場合は遠慮なくお申し出ください。
- ・私たちが医療行為上知り得た個人の情報やプライバシーは必ずお守りします。

当院は「地域住民及び利用者から信頼され、質の高い急性期総合医療および専門医療サービスを提供する病院」を目標とし、医師、看護師、薬剤師、技師、事務部門など将来の医療を担う人材を「人財」として育成することに努め、「医療の質向上」を図りつつ「モチベーションの高いプロフェッショナル集団」を目指している。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称 医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
住 所 〒921-8841 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号
TEL 011-681-8111 FAX 011-685-2998

病 院 長 田中 繁道

開院年月日 1987年12月16日

病 床 数 562床

(集中治療室12床・ハイケアユニット12床・
救命救急病床19床・脳卒中ケアユニット9床・
NICU3床・開放型病床5床)

診 療 科 目 内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、外科、呼吸器外科、
心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、精神保健科、
リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、
耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、
小児歯科、血液内科、腎臓内科、消化器外科、頭頸部外科、
放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、腫瘍内科

施 設 基 準

[基本診療科]

一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）

総合入院体制加算

地域医療支援病院入院診療加算

臨床研修病院入院診療加算（基幹型）

救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算

超急性期脳卒中加算

妊産婦緊急搬送入院加算

診療録管理体制加算
医師事務作業補助体制加算(15対1)
急性期看護補助体制加算(25対1)
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算2
がん診療連携拠点病院加算
医療安全対策加算1
感染防止対策加算1
患者サポート充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊婦管理加算
ハイリスク分娩管理加算
退院調整加算
新生児特定集中治療室退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
病棟薬剤業務実施加算
データ提出加算2
乳幼児、乳児加算、地域加算、救命救急入院料1
特定集中治療室管理料1
ハイケアユニット入院医療管理料
小児入院医療管理料2
新生児特定集中治療室管理料2
脳卒中ケアユニット入院医療管理料
入院時食事療養(I)
[特掲診療料]
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者カウンセリング料
内トリアージ実施料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料

肝炎インターフェロン治療計画料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料 1
 医療機器安全管理料 2
 在宅血液透析指導管理料
 造血器腫瘍遺伝子検査
 HPV 核酸検出
 検体検査管理加算 (Ⅱ)
 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
 植込型心電図検査
 時間内歩行試験
 胎児心エコー法
 ヘッドアップティルト試験
 センチネルリンパ節生検 1 (併用法)
 画像診断管理加算 1
 C T 撮影及びMR I 撮影
 冠動脈C T 撮影加算
 心臓MR I 撮影加算
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算 1
 無菌製剤処理料
 心大血管疾患リハビリテーション料 (Ⅰ)
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (Ⅰ)
 運動器リハビリテーション料 (Ⅰ)
 呼吸器リハビリテーション料 (Ⅰ)
 がん患者リハビリテーション料
 透析液水質確保加算 2
 一酸化窒素吸入療法
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
 乳がんセンチネルリンパ節加算 1
 併用法、経皮的冠動脈形成術 (特殊カテーテルによるもの)
 経皮的中隔心筋焼灼術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 植込型心電図記録計移植術
 植込型心電図記録計摘出術
 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術

植込型除細動器移植術・植込型除細動器交換術
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び
両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術
大動脈バルーンパンピング法（IABP）
補助人工心臓
経皮的大動脈遮断術
ダメージコントロール手術
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
膀胱水圧拡張術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
人工尿道括約筋植込・置換術
医科点数表第2章第10部手術の通則5
（歯科点数表第2章第9部の通則4をふくむ。）及び6に掲げる手術
輸血管理料Ⅰ
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
内視鏡手術用施設支援機器加算
人工乳房及び組織拡張器（乳房用）使用
麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ）
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
画像誘導放射線治療加算（IGRT）
病理診断管理加算2
[歯科]
地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科診療特別対応連携加算
医療機器安全管理料（歯科）
クラウン・ブリッジ維持管理料
歯周組織再生誘導手術
上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）

	(歯科診療に係るものに限る)
	下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
	(歯科診療に係るものに限る)
	広範囲顎骨支持型装置埋入手術
	歯科外来診療環境体制加算
	歯科矯正診断料
診 療 指 定	保険医療機関
	国民健康保険療養取扱機関
	DPC 対象病院
	労災保険指定病院
	結核予防法指定病院
	生活保護法指定病院
	自立支援医療機関
	身体障害者福祉法指定病院
	小児慢性疾患取扱病院
	特定疾患治療研究委託病院
	母体保護法指定医療機関
	札幌市・石狩市乳幼児医療費助成取扱病院
	札幌市・石狩市乳がん、子宮がん検診実施病院
	原子爆弾被爆者医療取扱病
	予防接種委託医療機関
	政府管掌健康保健成人病予防検診機関指定
	養育医療機関指定病院
	特定不妊治療費助成指定機関
各 種 指 定	厚生労働省指定 臨床研修病院
	厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
	北海道指定 地域災害拠点病院 (地域災害医療センター)
	北海道指定 地域医療支援病院
	救命救急センター
	救急告示病院
	札幌市救急二次・三次体制常時協力病院・病院群輪番病院

図3-2 アクセスマップ



JR 手稲駅に隣接し、国道、高速道路インターチェンジにもほど近い立地環境の手稲溪仁会病院。来院などのアクセスにも大変優れています。

■JRをご利用の方

札幌駅より小樽方面へJRご利用で10分、手稲駅下車、北口1出口から正面に建物が見えます。
(徒歩2~3分)

■バスをご利用の方

JR手稲駅北口停留所より徒歩2分です。

3-2 視察先選定理由

当院の医療秘書課課長補佐である南木氏は、特定非営利活動法人「日本医師事務作業補助研究会」副理事長でもある。南木氏は「医師事務作業補助研究会」北海道地方会の代表世話人でもあり、医師事務作業補助者の実務能力の向上と業務環境の改善、医師時作業補助領域の開発及び普及、病院勤務医の業務負担軽減などで研究発表をされ、また研究会での情報を共有した結果をもとに業務に役立てている。

今回、手稲溪仁会病院を視察先とした理由は、研究会の副理事長である南木氏から医師事務作業補助者の採用ポイントや配置、業務スキル、業務内容、将来性などについてヒアリングを行った。

3-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年8月29日（木）15:00～17:00
場 所	医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院
協力者	経営管理部 医療秘書課 課長補佐 南木 由美 氏
参加委員	伊藤、柄沢、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は、経営管理部「医療秘書課」と「医療情報課」に所属しているが、医療秘書課の所属は42名（女性41名、男性1名、2013年8月現在）で、医師事務作業補助体制加算の算定区分は、「15対1」を届出ている。

医師事務作業補助者を採用することにより、「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」を期待している。この職種は、医師や看護師、コメディカルなどの他部門とのクッション役を担っており、医師と患者との間のクッション役でもありと考えている。配置の際に必要なとされる能力は、コミュニケーション能力があること、パソコン操作ができる（入力が速い）ことなどがある。

・医師事務作業補助者の業務スキル

医療文書は、件数の多い診療科で医師事務作業補助者一人あたり月に150件程度作成している。必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造）、薬学知識（処方箋、薬物療法）、個人情報保護などである。専門知識も必要であるが、特に語彙力と要約力を使い、カルテの重要な箇所を正確にかつ簡潔明瞭に抜き出し、それを早く文書として作成することができるかがポイントとなる。生命保険会社に提出する書類には検査のDコード、手術のKコード、処置のJコードなどを書く必要があるため、医療事務の知識も必要である。また、病名と薬剤の知識は内容がわかる程度知識が必要である。

当院は、総合病院のため診療科も多く、研修では広い分野で教育を行い、配属された診療科においてOJT研修でスキルアップに努めている。医師が積極的に医師事務作業補助者に代行させている診療科ほどスキルアップしている。

・医師事務作業補助者の業務内容

電子カルテの代行入力業務は、現在の電子カルテシステムが2000年に導入されたもので、代行入力サポート体制になっていない。2014年1月にリプレイスする予定であり、今後、教育をしっかりと行って代行入力を行いたいと考えている。

文書代行作成は、北海道内の医師が独自に作ったソフトを使用している。作成する際には、カルテだけではなく、患者問診票の情報も参考としている。院外文書は、生命保険会社に提出する書類、介護保険の主治医意見書、傷病手当金意見書などを作成しており、診

療情報提供書は返書のみ作成している。院内文書は退院サマリーの作成補助を行い、院内がん登録は医療情報課が担当している。医療秘書課には課内で作成した医療文書作成マニュアルがある。

・医師事務作業補助者の将来性

当院の医師事務作業補助者の主な業務は、臨床支援、学術支援と日常支援業務である。データベース入力管理や医師のスケジュールなどを一元管理することで、正確な診療データの構築や医師が診療に専念できる環境の確保に貢献できている。医師事務作業補助者は、医療事務の経験者や有資格者が行った方がよりよいと考える。

医師事務作業補助者は、各部門との調整役となることが求められるため、コミュニケーションを取りながらモチベーションを持続することが重要である。医師や患者などから「感謝の言葉」をいただいたときに 93%の人がこの仕事にやりがいを感じるとの院内アンケート結果もあり、大変やりがいのある仕事である。

新人採用については、専門学校生などの実習受け入れその後の採用を医療事務職は行っているが、医師事務作業補助者は現在行っていない。実習受け入れは、今後の新人採用にむけてよい検討材料となると考えられる。

また、医師事務作業補助者は文書作成業務が必須になると思われるので、学生が専門学校で文書作成の教育を徹底して受け、文書作成ができれば、特に中途採用が多い現場では、採用時の大きな判断材料にもなると思われる。

(4) 広島赤十字・原爆病院

図4-1 広島赤十字・原爆病院



4-1 視察先の概要とプロフィール

広島赤十字・原爆病院は、昭和14年に広島赤十字病院として設立され、昭和20年8月6日の被爆後、昭和31年に広島原爆病院が敷地内に併設された。昭和63年広島赤十字病院は原爆病院と統合され、「広島赤十字・原爆病院」という名称を変え現在にいたっている。

「人道・博愛の赤十字精神のもと、人々に愛され信頼される病院を目指します。」

という理念のもと、5項目の基本方針を掲げている。

- ・安全・確実な医療を提供します。
- ・常に研鑽を行い、質の高い医療・看護に努めます。
- ・人権を尊重し、説明と同意に基づいた医療を行います。
- ・適切な連携を図り、地域医療に貢献します。
- ・積極的な災害救護活動を行います。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	広島赤十字・原爆病院
住 所	〒730-8619 広島市中区千田町1丁目9番6号 TEL082-241-3111（代表） FAX 082-246-0676（代表）
病 院 長	石田 照佳
職 員 数	1077名（非常勤職員を含む）
許 可 病 床 数	一般病床 598床
診 療 科 目	内科、肝臓内科、腎臓内科、血液内科、内分泌・代謝内科、 神経内科、循環器内科、呼吸器科、消化器内科、精神科、外科、 脳神経外科、整形外科、リウマチ科、産婦人科、小児科、 耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、 放射線治療科、麻酔科、歯科口腔外科、病理診断科（25科）
特殊診療部門	人工透析（47台）、無菌治療室（54床）、血液成分採血装置（6台）、 救急専用病床（4台）、開放病床（20床）、 骨髄移植施設、小児外来化学療法室（1床）
特 殊 施 設	健康管理センター、血液・腫瘍治療センター （個室4、ベッド32、リクライニングチェア9）、肝臓センター
付帯事業施設	原子力放射能障害対策研究所
医療機関の指定・承認	<p>保険医療機関</p> <p>児童福祉法に基づく養育医療指定医療機関</p> <p>被爆者一般疾病医療機関</p> <p>生活保護法に基づく指定医療機関</p> <p>労災保険指定医療機関</p> <p>小児慢性疾患及び特定疾患指定医療機関</p> <p>公害健康被害の補償等に関する法律に基づく指定医療機関</p> <p>戦傷病者特別援護法に基づく指定医療機関</p> <p>母子保健法に基づく指定医療機関</p> <p>母体保護法に基づく指定医療機関</p> <p>原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく指定医療機関</p> <p>感染症法に基づく感染症指定医療機関（結核指定医療機関）</p> <p>障害者自立支援法に基づく指定自立支援医療機関 （更正・育成・精神通院）</p> <p>中国在留邦人等支援法に基づく指定医療機関</p> <p>外国医師・外国歯科医師臨床修練指定病院</p> <p>2次救急指定医療機関</p>

災害拠点病院（地域災害医療センター）
臨床研修指定病院（医科）
臨床研修指定病院（歯科）
地域がん診療連携拠点病院
地域医療支援病院
広島県肝疾患診療支援ネットワーク専門医療機関
DPC対象病院
肝炎インターフェロン治療指定医療機関
日本病院機能評価 Ver. 5.0（一般病院）認定施設
人間ドック健診施設機能評価認定施設 Ver. 2.0

各種学会教育病院指定等の施設資格

日本内科学会認定医制度教育病院
日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設
日本肝臓学会認定施設
日本腎臓学会研修施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会認定教育施設
日本神経学会専門医制度教育関連施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会認定研修関連施設
日本高血圧学会認定研修施設
日本呼吸器学会認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本感染症学会研修施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本老年医学会認定施設
日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設
日本消化器病学会認定医制度認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
呼吸器外科専門医認定機構基幹施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設A
日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育施設

日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本周産期・新生児医学会母体・胎児専門医暫定研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本内分泌学会認定教育施設〔小児科〕
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門教育施設
日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本口腔外科学会認定医制度研修機関
日本人間ドック学会人間ドック専門医制度研修施設
日本病理学会病理専門医制度認定施設 B
日本臨床細胞学会認定施設
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼動施設
日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設
日本胆道学会指導施設
日本小児がん学会認定小児血液・がん専門医研修施設

施設基準

[基本診療料]

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算
歯科診療特別対応連携加算
一般病棟入院基本料（7対1入院基本料）
総合入院体制加算
臨床研修病院入院診療加算(医科)
臨床研修病院入院診療加算(歯科)
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
妊産婦緊急搬送入院加算
診療録管理体制加算

医師事務作業補助体制加算 3 (25 対 1)
急性期看護補助体制加算 3 (50 対 1)
療養環境加算
重症者療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
がん診療連携拠点病院加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1
感染防止対策加算 1 (感染防止対策地域連携加算)
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
ハイリスク分娩管理加算
退院調整加算
救急搬送患者地域連携紹介加算
救急搬送患者地域連携受入加算
呼吸ケアチーム加算
データ提出加算 2
小児入院医療管理料 4
[特掲診療料]
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者カウンセリング料
移植後患者指導管理料
糖尿病透析予防指導管理料
夜間休日救急搬送医学管理料
外来リハビリテーション診療料
外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
開放型病院共同指導料
地域連携診療計画管理料
ハイリスク妊産婦共同管理料 (I)
がん治療連携計画策定料
がん治療連携管理料

肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
歯科治療総合医療管理料
在宅訪問看護・指導料
HPV 核酸検出
検体検査管理加算 (IV)
植込型心電図検査
時間内歩行試験
胎児心エコー法
ヘッドアップティルト試験
皮下連続式グルコース測定
長期継続頭蓋内脳波検査
神経学的検査
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
センチネルリンパ節生検 1
センチネルリンパ節生検 2
画像診断管理加算 2
CT 撮影及びMRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)
呼吸器リハビリテーション料 (I)
エタノールの局所注入 (甲状腺)
エタノールの局所注入 (副甲状腺)
透析液水質確保加算 2
歯科技工加算
脳刺激装置植込術 (頭蓋内電極植込術を含む。)
及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
上顎骨形成術 (骨移動を伴う場合に限る。) (歯科)

下顎骨形成術（骨移動に伴う場合に限る。）（歯科）
乳がんセンチネルリンパ節加算 1
乳がんセンチネルリンパ節加算 2
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
大動脈バルーンパンピング法（IABP法）
体外衝撃波胆石破碎術
腹腔鏡下肝切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
膀胱水圧拡張術
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則 5 及び 6（歯科点数表第 2 章第 9 部手術の通則 4 を含む。）に掲げる手術
輸血管理料 I
輸血適正使用加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
広範囲顎骨支持型装置埋入手術
麻酔管理料（I）
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
病理診断管理加算 2
クラウン・ブリッジ維持管理料
体外衝撃波膵石破碎術

図4-2 新棟建設（2017年2月末グランドオープン）



4-2 視察先選定理由

広島赤十字・原爆病院は、日本赤十字社が運営する病院で、原爆に被災し、被爆後の医療拠点となった歴史的な経緯から原爆症治療のノウハウを多く持っている。「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律に基づく指定医療機関」の指定を受け、現在では原爆症以外の疾病を中心とした診療を行っている。

放射線障害は被爆直後が多いが、10年、20年経過した後に発症することも少なくなく、60有余年経った現在でも新たに発症するケースもあり、また母体内で被爆して生まれた子供が発症する「先天性被爆」もある。東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故から2年半が経ち、放射線の影響による健康被害は、いまだ報告されていない。しかし、数週間程度で発症する「急性障害」と数年以上の年月を経て発症する「晩発性障害」に分けられ、低線量被ばくによる晩発性障害が懸念されているだけに、継続した健康調査の重要性が指摘されている。

今回、広島赤十字・原爆病院を視察先とした理由は、医師事務作業補助者の採用や配置、業務スキル、業務内容などをヒアリングするとともに、放射線障害による被ばくなどについてもヒアリングを行った。

4-3 ヒアリング内容

日 時	平成 25 年 10 月 24 日（木） 9:30~11:00
場 所	広島赤十字・原爆病院

協力者 事務部 事務副部長 兼 診療記録管理課長 西田 節子 氏
事務部 医事課 課長 國清 真一 氏
参加委員 伊藤、柄沢

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は26名おり、医師事務作業補助体制加算の点数は、25対1補助体制加算を届出ている。内科系、整形外科系の診察室に22名を配置している。診療室以外に4名を配置しており、診断書の作成補助などを行っている。採用・配置にあたっては、医師事務作業補助者としての知識よりも（採用後の研修などで教育できるため）、「人柄」を重視している。また、正規雇用職員を配置することによって「医療の質の向上」「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」を期待している。医師事務作業補助者を救急救命室に配置するのは難しい。三次救急は「戦場」のような職場なので、すべての科の知識のある人材でないと対応できない。しかし、二次救急ならば配置をしても良い。

・医師事務作業補助者の業務スキル

医師事務作業補助者に必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みや解釈（特に解剖生理）、医療機関内で使用される類音語や類義語、医学知識（医学用語、人体の構造、解剖生理、部位）、薬学知識（薬物療法）、簡単な病院統計学、個人情報保護などである。

以前より内科系診察室に事務員を配置し、補助者的業務や研修を行っていたが、医師事務作業補助者の制度ができたことで、より研修体系を充実させた。その研修は月2回（1回2時間、計4時間）、年間を通して行い、内容は接遇、電子カルテ入力、医学一般、検査一般、放射線などで、担当講師は医師や各部門の担当で教育担当の研修医もいる。

また、採用2年目事務職員全員が対象として、8時間を2回計16時間の研修を行っている。これは医師事務作業補助者への異動も見据えたうえで、事務職員として必要な知識を習得することを目的としている。内容は倫理、ICDコーディング、看護、情報系などで研修終了時に試験も行っている。

・医師事務作業補助者の業務内容

電子カルテの代行入力業務は、オーダーと予約入力の一部を行っている。具体的に、オーダー入力は検査の伝票的操作で、予約入力は検査室などへのオーダー予約を行っている。必ず医師が医師事務作業補助者に口頭で指示し（確認依頼）、医師事務作業補助者は、担当部門に空き状況等を確認、それを医師（患者さんの了解を確認の上）の了解をもとにオーダーを入力する。原則、病名、処方、注射の代行入力を行っていない。なお、緊急事態でオーダーなしで配置薬使用の場合などは、伝票を起こし事後にオーダー処理（記録）するケースがある。

文書代行作成は、カルテの情報をもとに、院外文書は、紹介状の返書、診療情報提供書、生命保険会社に提出する書類、介護保険の主治医意見書を作成している。院内文書は、院内案内文書、手術（承諾書、診断書）、入院（契約書、証明書、予約表）、退院サマリー、がん登録の書類、検査等の承諾書を作成している。また死亡診断書、出生証明書、傷病手当金意見書も作成している。特に生命保険会社に提出する書類は多く、月に 1,000 件以上ある。常時 5 人体制で作成・管理し、申請後 2 週間の発行を原則としている。

文書作成システムは、ニッセイ情報テクノロジー株式会社の「MEDI-Papyrus」と株式会社ピーエスシーの医療用データマネジメントシステム「Claiio」、院内ドキュメント作成／データ管理システム「Docu Maker」を使い作成している。

「死亡診断書（死体検案書）」は、名前などに外字未対応部分や救急の場合に患者名や住所など身元の確認ができないことがあるため現在は医師が手書きで作成している。

・被爆地の医療機関特有の文書作成など

特徴のある文書としては、被爆者認定患者用の「被爆者認定患者意見書」が年間 200 件程度ある。従来から罹っている患者が申請する。新規の患者がこの意見書を申請することは稀である。

広島の場合は「外部被爆（体外から放射線を受ける）」で、福島の場合は「内部被曝（体内から被ばくすること）」のため、福島で今後広島と同じ様な症例が出るかどうかはわからない。データがないため長期の観察が必要である。福島原発での被ばくの場合、今後考えられると思う疾病は、白血病、脊柱や肺への癌、甲状腺癌、その他放射能障害の疾病などと思われ、特に原発で仕事をしている人が懸念される。これらの疾病は 20～30 年後に「先天性被曝」としての可能性があると考えられる。しかし、国としての被ばく量もいまだ決まってないので未知数である。

(5) 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院

図5-1 社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院



5-1 視察先の概要とプロフィール

福島県郡山市は、県のほぼ中央に位置し国道や高速道路、新幹線などの交通の要衝でもある。郡山市医療介護病院は郡山市の西側に位置し、平成18年6月1日に開院した医療と介護受け持つ療養型の病院である。

「生命の尊重と個人の尊厳を旨とし、和をもって市民に信頼される保健・医療・福祉サービスを提供します。」という理念のもと、5つの基本方針で病院運営を行っている。

1. 郡山医師会の理念に基づき、医療機関との連携を推進し、福祉や社会資源を含めたネットワークと情報の拠点として、地域の保健・医療・福祉の質の向上を目指します。
2. 長期療養を要する方々に、一人ひとりのQOLを尊重した保健・医療・福祉サービスを提供します。
3. 施設サービスや在宅サービスの統合的なリハビリテーション提供施設として、心身機能の維持回復を図り、リハビリテーション機能の充実を目指します。
4. 医療福祉の教育研修機能を充実させ、地域の優秀な人材の育成を図ります。
5. 「災害時の郡山医師会災害対策本部」における、情報の収集と発信に協力します。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
住 所	〒963-8031 福島県郡山市字上亀田 1 番地の 1 TEL 024-934-1240(代表) FAX 024-934-1070
病 院 長	原 寿夫
診 療 科 目	内科、婦人科、整形外科、リハビリテーション科
病 床 数	療養病床 120 床 (医療型 40 床 (医療保険)、介護型 80 床 (介護保険))
休 診 日	土曜日、日祝祭日、年末年始 (12 月 29 日～1 月 3 日)
外来診療時間	午前 9 時～正午 ※火曜日の整形外科一午前 11 時 30 分まで
面 会 時 間	午前 9 時～午後 8 時
指定医療機関	保険医療機関 (医科) 生活保護法 結核指定医療機関 原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
施 設 基 準	療養病棟入院基本料 1 療養病棟療養環境加算 1 医療安全対策加算 感染防止対策加算 2 患者サポート体制充実加算 退院調整加算 救急搬送患者地域連携受入加算 総合評価加算 入院時食事療養 (I) 入院時生活療養 (I) 外来リハビリテーション診療料 開放型病院共同指導料 地域連携診療計画退院時指導料 (II) 薬剤管理指導料 在宅療養支援病院 (2) 在宅時医学総合管理料及び特定施設入居時等医学総合管理料 在宅がん医療総合診療料 在宅患者訪問看護・指導料 CT 撮影及び MRI 撮影 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II) 運動器リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）
 集団コミュニケーション療法料

図5-2 アクセスマップ



- 福島交通バス：郡山駅発9番ポールより乗車下さい。
 希望ヶ丘行き、新池下団地行き 郡山ビッグハート下車
- 郡山駅より車で約10分
- 東北自動車道郡山インターより車で約8分

5-2 視察先選定理由

2013年9月4日厚生労働省が発表した、2012年の医療施設動態調査・病院報告（2012年10月1日時点）によれば、福島県の人口10万人当たりの医師数が122.5人（前年比1.8人減）となり、全国平均159.1人より30人以上少なく、埼玉県に次いで全国ワースト2位となっている。その原因は「東日本大震災の影響で医療機関の数が減少したため」と分析している。

被災地3県では、岩手県は病院が3カ所減ったが、診療所は震災前の数に回復している。宮城県は、病院が4カ所減ったが、診療所は震災前より増えている。福島県は、東日本大震災前の平成22年と比較し、病院は10カ所、診療所は60カ所も減少しており、福島県の「医療過疎」の進行している。

2013年9月6日の読売新聞インターネット版によれば、福島県内の非常勤医師を除いた全医師数は、2011年3月1日時点で2,024人であったが、震災と原発事故で県外への流出が相次ぎ、2012年8月1日時点で1,945人となり79人減少した。その後、2013年8月1日時点で1,989人まで回復した。これは各病院から寄せられた求人情報を県がホームページで一括掲載・募集する事業「ドクターバンクふくしま」や、5月に会津若松市に開所された福島県立医大会津医療センターに伴う医師を採用したことがその理由である。しかしそれでも震災前より35人少なく、地域別では会津地方が41人増えたが、避難指示区域が

設定された相馬地方は5人減、双葉地方は37人減であり、浜通りの医療環境は依然厳しい状況が続いている。

今回、視察を行う郡山市医療介護病院は、郡山市が社団法人郡山医師会を指定管理者に指定した病院で、医療と介護の病院として設立された。東京電力福島第一原子力発電所事故のため避難してきた患者も訪れ、証明書の発行も行っている。医師事務作業補助者を採用していないが、看護師がその業務の一部を行っているという。電子カルテと文書作成業務の内容、被災地の医療機関として対応していることなどについてヒアリングを行った。

5-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年11月5日（火）13:00～14:30
場 所	社団法人郡山医師会 郡山市医療介護病院
協力者	病院長 原 寿夫 氏 医事課長 伊藤 篤志 氏
参加委員	柄沢、古川

・看護師が行う医師事務作業補助業務

当院では、医師事務作業補助者を採用していないが、その業務は外来診療で看護師が電子カルテの代行入力を行っている。診察室とは別室の予診室において、患者の主訴などの問診（問診票に記入）や体温、血圧などのバイタル測定を行い、それを電子カルテに入力している。問診票入力をする看護師は、医学用語や診療科の専門用語、病気のことなどを理解しているため、事前にソーシャルワーカー的事柄（家庭生活、福祉関係、身体障害者手帳の有無など）も聞いており、その情報をもとにして医師は診察を行うため大変助かっているという。医師事務作業補助業務に期待できることは、「医師の作業軽減化」「患者サービスの向上」で、特に治療や病状にあった患者へのサービスが向上することを期待している。必要とする知識は、要約力や語彙力、薬学（処方箋の知識、薬物療法）などで、発行した証明書が何のために使われるのかを理解しておく必要がある。大震災関係の証明書（東京電力福島第一原子力発電所事故関連の証明書）などで、提出された証明書について弁護士（会）から問い合わせがくる場合があり、それらの際にはしっかり対応できるようにしておくことが重要である。

研修については、まず入職時には電子カルテなどの情報リテラシーなどと個人情報保護法について教育を行い、その他の教育研修は年1回行われる。文書作成の実務教育などは情報管理室と医師とで個別に指導を行っている。

・電子カルテシステムと文書作成の現状

電子カルテシステムは、株式会社ポテトの「My電子カルテ」を外来診療で使用している。検査結果や診療内容を診察終了後、患者に情報提供できるメリットがある。USBメモリなど

にカルテや画像データの一部を提供している。また患者が来院前に症状などをデータ入力し、その入力されたデータを電子カルテに取込みができるため、医師の事務業務の負担軽減となっている。

文書作成は、医師が手書きで作成している。主治医意見書は日医総研の文書作成ソフトを使っており、診断書は電子カルテの作成ソフトを使っている。紹介状（診療情報提供書）と介護保険の主治医意見書が多く、生命保険会社に提出する書類は作成項目が多いことと会社によって書式が違うことが負担となっている。身体障害者申請の為の書類は、リハビリ担当者が下書きをした後に医師がまとめている。退院サマリーは、医師が作成している。

・被災地の医療機関として対応していること

郡山地域の医師数に関しては、協力救急チームもできたため、急性期の医師が震災前よりも2倍位増えた。しかし現状は20歳代と50歳代の医師が残り、30歳代と40歳代の働き盛りが県外へ移転した。来春の研修医希望者は増えているとのことであるが、福島県外からの希望者はかなり減っているようである。東京電力福島第一原子力発電所事故の関連の書類作成が増加しているため、今後、医師の事務業務を軽減するため、医師事務作業補助業務を行う人材の育成が必要となる。

(6) いわき市立総合磐城共立病院

図6-1 いわき市立総合磐城共立病院



6-1 視察先の概要とプロフィール

福島県いわき市にある「いわき市立総合磐城共立病院」は、いわき市病院事業の設置等に関する条例（昭和44年3月28日いわき市条例第65号）により設置された市立病院である。地域医療支援病院、福島県災害拠点病院、救急救命センター、地域周産期母子医療センターなどの指定を受けている。

「慈心妙手（じしん…相手を慈しみ思いやる気持ち、みょうしゅ…優れた医療技術）」

「わたしたちは、市民の健康と生命を守るため、安全で安心な医療を提供し、地域から信頼され、進歩し続ける病院を目指します。」という理念のもと、6項目の基本方針を掲げている。

1. 浜通り地区の中核病院としての役割を担います。
2. 地域と連携し、高度医療、先進医療、救急医療の充実に努めます。
3. 明日を担う医療従事者を育成します。
4. 患者さんと職員との信頼関係を築くことに努めます。

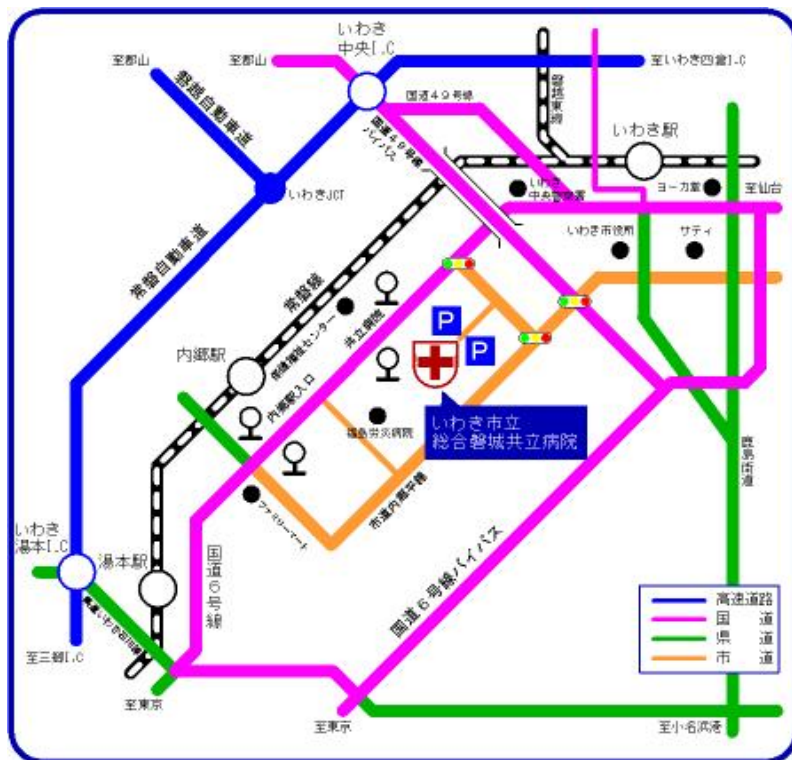
5. 安全で安心な医療を提供するため「チーム医療」を実践します。
6. 自治体病院として良質な医療の提供と健全経営に努めます。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	いわき市立総合磐城共立病院
住 所	〒973-8555 福島県いわき市内郷御厩町久世原 16 TEL 0246-26-3151（代） FAX 0246-26-2224
病 院 長	樋渡 信夫
病 床 数	828床（一般 755 床、精神 21 床、結核 46 床、感染 6 床）
1 日平均外来患者数	952 人（平成 24 年 3 月分）
1 日平均入院患者数	593 人（平成 24 年 3 月分）
診 療 科 目	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、 心療内科、外科、呼吸器外科、心臓血管外科、 小児外科・整形外科、脳神経外科、形成外科、精神科、小児科、 皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、 リハビリテーション科、放射線科、救急科、麻酔科、歯科口腔外科
院 内 標 榜 科	糖尿病・内分泌科、血液内科、腎臓・膠原病科、病理科、 未熟児・新生児科、疼痛外来
専門高度診療センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域周産期母子医療センター 2. 小切開心臓手術—大動脈ステントグラフトセンター 3. 心血管治療センター 4. 人工関節センター 5. 肝炎対策センター 6. 炎症性腸疾患センター
認定及び指定	特殊診療 救命救急センター 人工透析センター リハビリセンター 新生児集中治療室 中央集中治療室(CTU) 訪問診療 厚生労働省臨床研修指定病院

災害拠点病院
地域医療支援病院
福島県がん診療連携推進病院
地域周産期母子医療センター
財団法人日本医療機能評価機構認定病院
一般病棟 7対1入院基本料
救命救急入院料 1
新生児特定集中治療室管理料 2
診療録管理体制加算
救急医療管理加算
療養環境加算
小児療養環境特別加算
薬剤管理指導料
入院時食事療養費(Ⅰ)
医療安全対策加算
感染防止対策加算
褥瘡患者管理加算
ハイリスク分娩管理加算
施設基準届出手術実施件数
各学会認定研修病院
結核病棟 7対1入院基本料
特定集中治療室管理料 2
小児入院医療管理料 2
臨床研修病院入院診療加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算
急性期看護補助体制加算
医師事務作業補助体制加算
検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

図6-2 アクセスマップ



- ・ JR いわき駅から
常磐交通バス3番のりばから乗車し、「共立病院」バス停車
- ・ JR 内郷駅から
国道6号線沿い「内郷駅入口」バス停からいわき駅方面行きバスに乗車し、
「共立病院」バス停車

6-2 視察先選定理由

福島県は、各自治体の中でも医師事務作業補助者の雇用創出や増員に対して積極的に行っている。保健福祉部地域医療支援センターでは、県内で働く医師に対する支援として、「病院勤務医の負担軽減による働きやすい職場環境整備のため、医師事務作業補助者の増員や認定看護師の養成など病院が実施する医師が働きやすい職場環境整備を推進する取組みを支援します。」というホームページを掲げている。また、平成23年度福島県緊急雇用創出基金事業（地域人材育成事業）として、同じく保健福祉部は、「病院勤務医の負担軽減に資する医師事務作業補助者を医療機関に配置し人材を育成するとともに、補助者の導入推進に向けた効果や課題を検証する事業」という推進事業により、医師事務作業補助者を導入し、医師の事務業務の負担軽減につながり、医師からは大変大きな評価を得ている病院（須賀川市の公立岩瀬病院）もある。

今回、いわき市立総合磐城共立病院を視察先とした理由は、県立や市立などの公立病院が、積極的な医師事務作業補助者の採用と配置をしている状況をヒアリングし、また東日

本大震災の被災地であり、東京電力福島第一原子力発電所事故の関連の文書などについてヒアリングを行った。

6-3 ヒアリング内容

日 時	2013 (平成 25) 年 11 月 5 日 (火) 16:15~17:45
場 所	いわき市立総合磐城共立病院
協力者	医事課 医事係長 猪狩 正信 氏 医事課 医事係 主査 藤原 智美 氏
参加委員	柄沢、古川

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は 22 名。医師事務作業補助体制加算の点数は、40 対 1 補助体制加算を届出ている。その他職種として医局秘書、院長秘書がいる。当院ではこれらは医師事務作業補助者の届出はしていない。

採用に関しては、退職者の補充または人員拡大の計画がある時など求めに応じて採用している。社交性、積極性、メンタル面の強さ、「空気」を読む力などが必要である。医師から求められる医師事務作業補助者は、対応の素早い人（業務スキルだけではなく、早く返答が返ってくる人）などの要望が多く、そのような能力を持つ人を配置すると、医師からはその人を異動しないで欲しいとまでいわれている人もいる。医師事務作業補助者を採用することで「医師の作業軽減化」が図られ、医師から事務業務などが大変軽減されたとの意見が多く寄せられている。しかし現実問題として、医師 1 人に医師事務作業補助者を 1 人配置できない。当院の医師は 100 人ほどおり、すべての外来に配置することは実際問題大変厳しいといえる。

・医師事務作業補助者の業務スキル

当院の医師事務作業補助者に必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みと解釈、医学（医学用語、人体の構造）、個人情報保護などである。特に要約力と語彙力は、文書の提出先によって、求められる表現が異なる場合がある。例えば、生命保険会社に提出する書類は、簡潔に書く必要があるため要約力と語彙力が必要である。またカルテに使用される漢字の読みと解釈は、医学用語など専門的知識ないと厳しい。

研修については、院内で 6 か月の研修期間内に 32 時間以上の研修（医師事務作業補助者としての業務を行いながらの職場内研修を含む）を行っている。具体的には、1 日 1 時間を 32 回行っている。またそれ以外にも電子カルテやオーダーの操作指導も行っている。6 ヶ月の研修後、民間資格である「ドクターズクラーク」を受験させ（個人負担 8,000 円）、それに合格すると翌年から嘱託雇用に変わるシステムもある。研修後にオーダー入力や予約入力などできるようになってから診療科に配置する。しかし配置しても英語で書かれて

いるカルテや癌のステージ分類の記載、放射線量等は診断書で記載を求められるが、それを電子カルテから読み取り記載することは難しいので、継続的な研修でスキルアップに努めている。

・医師事務作業補助者の業務内容

外来での電子カルテの代行入力業務は、希望のあった一部の診療科で行われており、診療室に医師事務作業補助者用の電子カルテ端末を使い、オーダー入力と予約入力を行っている。退院サマリーは、一部の診療科で定型文的事柄の入力を行い、処方箋入力は簡単な作業であるd o処理だけを行っている。問診票の入力は脳外科だけが行っており、配置されている診療科によって業務内容が異なっている。医師事務作業補助者を配置している科は、救命救急センター、麻酔科、心臓血管外科であり、それ以外は一人で複数科かけ持ちできるように指導して、担当が休んでも業務に支障がでないようシフトを組んで行っている。

文書代行作成は、ニッセイ情報テクノロジー株式会社「MEDI-Papyrus」のシステムを使っている。これは生命保険会社に提出する書類が一番多いためである。その他文書で現在困っているのは、東京電力関連の文書（賠償絡みの文書）で、平成23年4月～平成24年3月の1年間で924件あった。特にこの文書は、避難生活との関連性「あり・なし」を医師に判断させ、明記する箇所があり、発行後に内容についての照会文書も多く、医学的根拠を問われるなど対応に苦慮している。

院内文書では、退院サマリーの作成を一部の診療科で行っている。また、同意書などは医師がある程度説明後に、別室で医師事務作業補助者が作成し、医師の承認を得て患者に渡している診療科もあり、スピードアップが図られ、配置した効果が出てきている。

・被災地の医療機関として対応していること

東日本大震災直後の当院は、患者の急な避難で薬やお薬手帳を持っていない人たちへの対応に追われた（薬を出したくても患者情報がなく内容を患者から聞き取り処方するために、かなりの時間を要した）。当院から支払機関などへ処方データ照会を行ったが、回答は数件のみしかなく、緊急時の国や行政の法的整備、対応の必要性、情報公開の重要性を痛感した。また福島県の医師不足に関しては、もともと少なかったが、震災後研修医の応募が減っている現状がある。

(7) 医療法人 松田会 松田病院

図7-1 医療法人 松田会 松田病院



7-1 視察先の概要とプロフィール

仙台市泉区は仙台市の北西にあり、高度成長期から丘陵部の宅地開発が徐々に進められ仙台市のベッドタウンとして発展した。昭和46年に泉市として市制施行し、昭和63年に仙台市に編入合併され、平成元年に仙台市の政令指定都市移行に伴い泉区となった。泉区にはJリーグ・ベガルタ仙台のホームスタジアムであるユアテックスタジアム仙台や東北楽天ゴールデンイーグルスの練習場と合宿所もある。

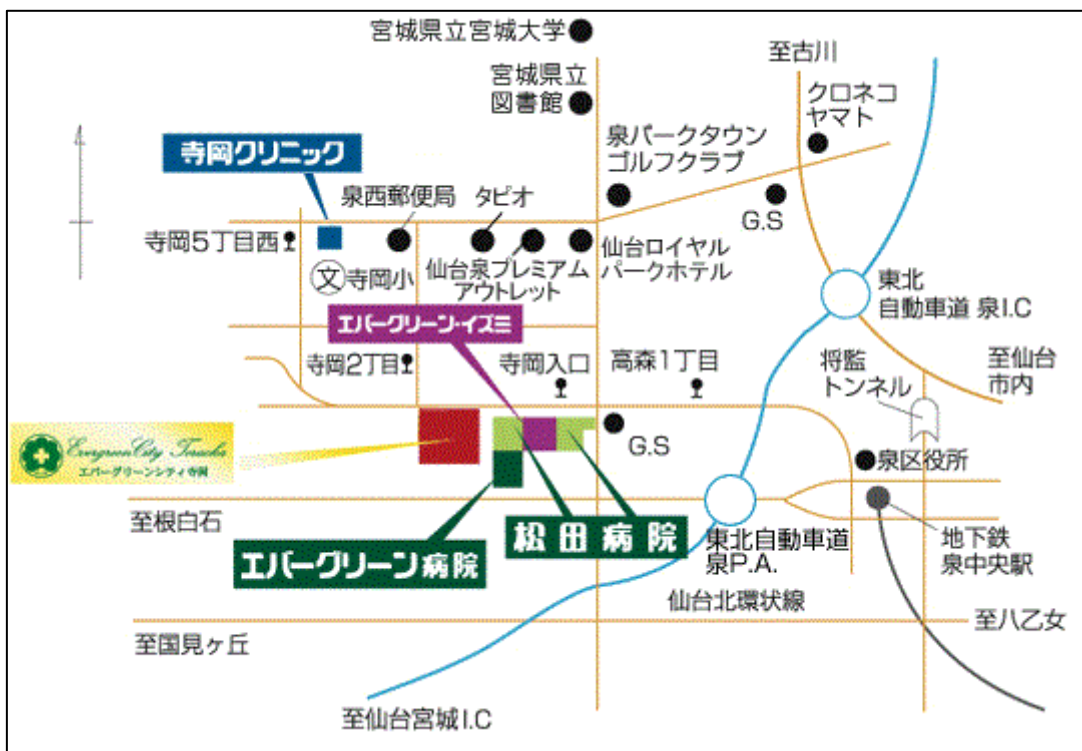
松田病院は、仙台市営地下鉄南北線で仙台駅より泉中央駅まで約15分、泉中央駅から宮

城交通バスで寺岡入口停留所より徒歩2分の位置にある。昭和57年(1982年)に開業し、「身近なかかりつけ医」として地域医療に携わってきた。医療法人松田会としては、平成8年(1996年)に介護老人保健施設エバーグリーン・イズミ、平成11年(1999年)2月にメンタルクリニック・歯科、平成14年(2002年)6月に認知症疾患専門病院エバーグリーン病院を設立。その後も介護老人施設や数多くのクリニックを設立し、地域に根ざした医療を目指し、傷病を治す医療から積極的に健康を築き保つための医療を目指している。

●病院プロフィール(ホームページより)

名 称	医療法人 松田会 松田病院
住 所	〒981-3217 宮城県仙台市泉区実沢字立田屋敷17-1 TEL 022-378-5666 FAX 022-378-5009
開 設 者	松田 倫政
病 院 長	松田 恵三郎
病 床 数	一般病床77床(内22床 亜急性期病床) 回復期病床48床
診 療 科 目	外科 整形外科、スポーツ整形外科、形成外科、 リハビリテーション科、内科、消化器内科、呼吸器内科、 循環器内科、神経内科、リウマチ科、麻酔科、糖尿外来、 いびき・無呼吸外来、眼科、歯科、肩外来、股関節外来
グループ一覧	松田病院、東北股関節疾患センター、エバーグリーン病院、 寺岡クリニック、鶴ヶ谷クリニック、仙台脳外科クリニック泉中央、 八木山整形外科クリニック、エバーグリーン・イズミ、 エバーグリーン・ツルガヤ、エバーグリーン・ヤギヤマ、 (医療法人社団 光友会)アルパイン川崎 [関連事業所] 株式会社 松田会、有料老人ホーム エバーグリーンシティ・寺岡、 寺岡デイサービスセンター、鶴ヶ谷デイサービスセンター、 マーク・トゥエイン、パークタウンデイサービスセンター

図7-2 アクセスマップ



7-2 視察先選定理由

国立大学法人東北大学病院は、有期雇用として平成25年7月22日に医師事務作業補助者を募集開始した。業務内容は、診療に関するデータ整理・統計調査、診療記録への代行入力、文書作成補助（診断書、主治医意見書等）、その他医師事務作業補助全般である。応募資格は、医療事務従事経験があり、病床200床以上の病院で3年以上勤務したことのあつる者、医師事務作業補助若しくは医療事務関連の資格を有する者、WORD及びEXCELでの事務処理が可能な者、業務について誠実かつ積極的に取組む意思のある者を対象としている。

一般財団法人厚生会 仙台厚生病院は、看護補助業務（ナースエイド）で採用し、経験後に勤務実績によりクランクとなり、勤務しながら院内医師事務作業補助者研修を受講し、本人のやる気と能力次第で医師事務作業補助者になれるスキルアップシステムを構築している。

平成20年の診療報酬改定に伴い医師事務作業補助者という職名が誕生して5年が経過し、この職種が医療機関に確実に定着しつつある。今回、松田病院を視察先とした理由は、介護施設やデイサービスセンター、有料老人ホームなどを経営し、幅広い医療機関を展開している当院の医師事務作業補助者の採用と配置、業務スキル、業務内容などについてヒアリングを行った。

7-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年11月7日（木）13:30～15:00
場 所	医療法人 松田会 松田病院
協力者	医事課 係長 堀籠 かおり 氏
参加委員	今野、伊藤、野田

・医師事務作業補助者の採用と配置

当院の医師事務作業補助者は10名。院内では「診療補助スタッフ」と呼んでいる。全員女性で正職員9名、パート職員が1名で、そのうち5年経験者が1名である。医師事務作業補助体制加算の算定区分は、「25対1」を届出ている。

新卒者（大学、専門学校）と中途採用者を医事課で採用し、医師事務作業補助者としての適性をみて診療補助スタッフとして配置している。配置することによって「医療の質の向上」「患者サービスの向上」を期待している。配置のポイントとして、コミュニケーションの能力とパソコンスキル、文書作成の知識などで特に人柄を重視している。現在、内科の6診療室に各診療室1名体制で配置している。

・医師事務作業補助者の業務スキル

医療文書は、一人あたり月に平均100件程度作成している。主に生命保険会社へ提出する書類が多く、そのため必要とされる専門知識は、要約力と語彙力、カルテに使用される漢字の読みやその解釈、医学知識（医学用語、人体の構造）、その他としてコミュニケーション能力などである。電子カルテの使用方法や医学用語、略語などの勉強会を、月1回のペースで開催している。また各人とも独学で用語などを勉強している。その際に使用している教材は、用語集やオリジナルメモ、スマートフォンを使っている。

・医師事務作業補助者の業務内容

当院の医師事務作業補助者の業務内容は、診療室においての患者の呼び込みや診療準備である。診療室には電子カルテが入っているパソコンが3台（医師が2台、診療補助スタッフが1台）あり、診療録の入力は医師が行い、診療補助スタッフは医師の指示を受けてオーダー入力をしている。

文書代行作成は、院外文書では、生命保険会社に提出する書類が一番多く一人あたり月に平均100件以上作成しており、その際、医師が書いた電子カルテの情報をもとにして、ニッセイ情報テクノロジー株式会社の文書作成用ソフト「MEDI-Papyrus」を使い作成している。介護保険の主治医意見書は月に100件程度あり、その次に診断書が多い。紹介状と診療情報提供書は医師が作成している。院内文書は入院（契約書、証明書、予約表）を作成している。院内案内文書はソーシャルワーカーが作成している。死亡診断書、傷病手当金意見書、療養費同意書、自賠責、労災関係書類も作成している。東日本大震災被災地特

有の医療費軽減の証明書は平成 25 年 3 月まで作成していた。また作成された文書の期限や提出先についても理解しておく必要がある。作成した文書がどのように使われ、患者がそれによって給付金（主治医意見書をもとに市町村が要介護認定審査行うことなど）などを受けられるがどうかなど理解しておくことは大変重要である。

将来、医師事務作業補助者になる人に対して伝えることは、医師から頼られ必要とされる業務なので大変やりがいのある仕事だと思う。素直で人の話をよく聞き、知識も必要であるが、やる気と感謝と思いやりのある医療人として臨んでもらいたい。

(8) 医療法人社団赤石会 赤石病院

図8-1 医療法人社団赤石会 赤石病院



8-1 視察先の概要とプロフィール

宮城県塩竈市は、仙台市と日本三景で有名な松島との中間に位置している。東北鎮護・陸奥国一之宮鹽竈神社の門前町として、またみなと町として発展してきた。日本三景松島の島々の大半は塩竈市に属しており、風光明媚な地域でもある。

赤石病院は、JR 仙石線下馬駅から徒歩7分、宮城交通バス下馬停留所より約2分の位置にあり、昭和37年に開業し、今年で51年を数える。病院は高台にあり、東日本大震災時も地震、津波の影響を受けず、診療を続けられた。

「患者様の権利を尊重した患者様中心の医療に努めるとともに、地域住民から信頼され愛される病院を目指します。」という理念のもと、6項目の目標を掲げている。

- ・病院職員としての理念を遵守し、患者様の生命を尊重した安全で安心のできる医療を展開します。
- ・医療水準の向上に努め、質の高い効果的な医療を提供することにより、患者様の満足と地域医療の発展に貢献します。
- ・救急医療は医療の原点と考え、24時間対応します。
- ・病院に働くすべての職員が、一人の患者様に平等にかかわり合う体制を確立します。

- ・患者様が生きるエネルギーを感じ取れるような、職場づくりをします。
- ・病院の健全な経営に努め、良質な医療を継続的に提供します。

●病院プロフィール（ホームページより）

名 称	医療法人社団赤石会 赤石病院
住 所	〒985-0023 宮城県塩釜市花立町 22-42 TEL 022-362-8131 FAX 022-362-8134
受付時間	9：00～17：30
病 院 長	赤石 隆
病 床 数	一般 51 床 療養 28 床（平成 21 年 8 月）
敷 地 面 積	延べ面積(建築物全体) a. 申請部分の面積 3946.87m ² b. 申請以外の部分の面積 1307.29m ² 合計 5254.16m ² 敷地の面積 3455.33m ²
診 療 科 目	外科、脳神経外科、小児外科、整形外科、形成外科、 内科、漢方内科、救急科、麻酔科、放射線科、 リハビリテーション科、呼吸器外科、気管食道外科、 消化器外科、乳腺外来、肛門外科
主 な 設 備	手術室（第一・第二） X線テレビ（DR） CT スキャン 16 列 MRI1.5 テスラ（磁気共鳴断層装置） 各種内視鏡 デジタル超音波診断装置 骨密度測定装置 マンモグラフィ等
救急告示指定	昭和 45 年 6 月指定
沿 革	1962 年 8 月 赤石病院開設 1970 年 6 月 救急告示病院 1998 年 11 月 医療法人社団赤石会設立 初代理事長兼院長に赤石健一就任 2000 年 9 月 赤石隆 理事長兼院長に就任 2005 年 4 月 多賀城市笠神二丁目 136-2、11 に 看護師宿舎新築移転 「RC 造 地上 3 階建て 延 410.82m ² 」

- 2008年 8月 第1期工事西棟完成
 (建築面積 642.42m² 延べ床面積 2046.69m²)
- 2009年 7月 第2期工事南棟完成 (建築面積 1545.99m²)
- 2009年 8月 「生活習慣病予防健診」の業務委託医療機関に
 指定協宮城支部発
 第0828001号 22年4月より健診開始
- 2010年 1月 西棟内視鏡室増築
- 2010年 2月 電子カルテ稼働
- 2010年 3月 西棟内視鏡室 15日完成
 上部消化管汎用ビデオスコープ
 (ハイビジョン高画質内視鏡)
 上部消化管汎用ビデオスコープ
 (経口・経鼻用内視鏡)
 電子内視鏡システム導入 (オリンパス社製)

図8-2 一般外来



手術室



MRI室



8-2 視察先選定理由

東日本大震災により市沿岸部に津波が襲来し、津波の高さは、本土側では概ね1.5m~4.8m、浦戸地区では8m(標高)を超え、浸水範囲が本土地区では市域面積の約22%、浦戸地区では全島において居住区域に達するなど甚大な被害をもたらした(塩竈市ホームページより)。また、塩竈市の隣の多賀城市では津波による死者が185人、塩釜市など近隣の港町を上回った。津波の死者の多くは、市内を横断する国道45号と県道仙台塩釜線に集中している。週末で交通量が多く、地震の影響で信号が止まり、大渋滞が起きていたところに津波が襲ったことによる。

大震災により、宮城県の医療施設の被害の大きかった気仙沼医療圏と石巻医療圏は公立病院の再建が具体化してきている。

気仙沼医療圏では、南三陸町内に外来診療部門を残しながら登米市米山町に移転した公立津川病院が、同町内に新病院を2015年4月に開業する計画を検討している。

石巻医療圏では、石巻市立、市立雄勝、恵愛の3病院が休止中で、市立病院は2012年5月に仮設診療所を設置し、2016年7～8月の新病院開院に向け基本設計に着手している。圏内の医師とベッド数が足りず、急性期の患者を受け入れている石巻赤十字病院は、症状が安定した患者の受け入れ先の確保に苦慮している。仙台市（宮城野区、若林区）、塩竈市はほぼ震災前まで回復している。

赤石病院は、塩竈市の高台にあるため、東日本大震災の地震や津波などの直接的な被害を受けなかったため、震災3日後の3月14日に、塩竈市内において行政・病院・医師会などが結集した「地域対策本部」の立ち上げにも、近隣市町や自衛隊、保健所などと一緒に当院も参加され復旧復興に奮闘された。

今回、赤石病院を視察先とした理由は、当法人の常務理事兼事務長であり、「(社)日本医業経営コンサルタント協会」において認定登録医業経営コンサルタントである遠藤氏から震災時の医療機関の状況と医師事務作業補助者についてヒアリングを行った。

8-3 ヒアリング内容

日 時	2013（平成25）年11月7日（木）16:30～17:00
場 所	医療法人社団赤石会 赤石病院
協力者	常務理事 事務長 遠藤 奏 氏
参加委員	今野、伊藤、野田

赤石病院は、塩竈市の高台にあるため、東日本大震災の地震や津波などの直接的な被害は受けなかったものの、停電のため電子カルテが使えなかった。一時的に紙カルテを使って診察を行ったが、非常用自家発電装置を使い少しずつ電子カルテシステムを普及させ、患者の診察を行った。院内にサーバーがあったため、大震災で間接的に被災したこともあり、将来的に電子カルテをクラウド化することも考えている。

遠藤氏は常務理事で事務長も兼ねており、また「(社)日本医業経営コンサルタント協会」において認定登録医業経営コンサルタントであるため、常に経営者と一体となり病院経営を考えている。施設基準は、入院基本料は15対1、療養型28床と一般型51床の合計79床である。外来は一日平均110～120人で、手術は原則午後に行っている。現在、事務員が7名おり、医師事務作業補助者として届出ている職員はいない。採用と配置に関しては、病院経営を考慮しながら当院としてのメリットとデメリットをよく検討した上で結論を出したい。

現在電子カルテの入力と文書作成は、医師がすべて行っている。入院患者と外来患者は病院規模として適正な人数で、医師も定着しているため今のところ業務多忙となることはない。将来、当院でもDPCを取り入れる時が来ると思うので、その際に医師事務作業補助者の採用も検討することになる。

平成25年度 文部科学省
東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業

総 括 報 告 書

平成26年3月

福島県における医師事務作業補助者育成プログラムの開発と実行
学校法人郡山学院 ケイセンビジネス公務員カレッジ

* 本書の内容を無断で転記、記載することは禁じます。